

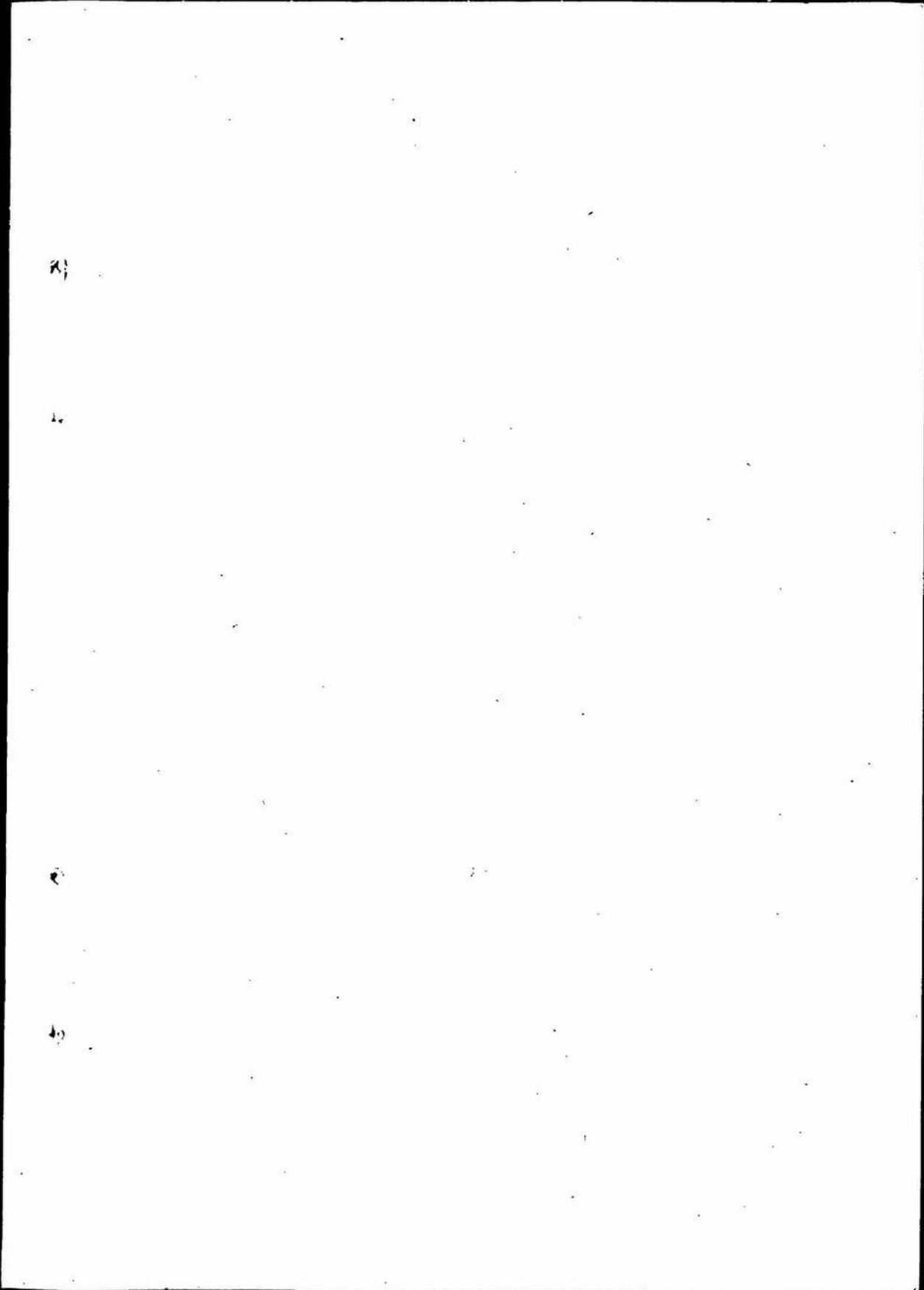


昭和十九年十月起

日仏印交渉

国立公文書館	
分類	(返) (青)
排架番号	3 A
	15
	54-1

54-1



昭和十九年十月起

日佛印交渉

WDC 227055

崎谷事務官

国立公文書館	
分類	㊦ ㊧
	3 A
配架番号	15
	54-1

裏面白紙

秘

大日本帝國政府

時谷事務官

昭和十八年十二月二十三日

大藏省外資局長  
久保文藏 殿

橫濱正金銀行領取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

拜 啓

日佛印協定交渉經過ノ件（第一號）

弊行對印庭支那銀行間協定、件讓而御來示勸告候方針ニ據申交  
涉開始方弊行現地支店へ手續済、適河内空懸ニヨリ先方卜、連絡不  
如線ノ爲、西貢ニ於テ交渉開始、現在、如ク申遞候間不取敢御禮候  
申上候

左 記

敬 具

裏面白紙

(大)

# 大日本帝國政府

第四協定ノ件

○西貢ヨリ

十二月二十一日發  
二十二日着

(大)

カネー來西後連日印聯邦會議ニ列席シ居リシ爲昨夕迄二回短時間  
會見シ得タルノミ且先方準備ノヒマナク交渉充分進歩セザル内今朝  
河内河ヶ出發セリ經過左ノ如シ

(一) 同氏ハ第二協定廢棄後米勸定ハ整理ノ爲ノ來年一杯存續 General  
F/Aノ各月振替並ヒニ利率年  $4\frac{3}{8}\%$  從來通りト了解スルカ如何ト、  
質問アリ此點實情へ照會、上同答スベシト申述ベタルニ付返電相  
成慶

(二) Export advance Challenger agreement トシテ印、海港又ハ河港ニ  
在ル Exportable goods Trade for shipment ニ對シ適宜 check、上資金  
供給スベキモ文書ニ挿入ヲ附セズ、前付前廢費ハ頑強ニ不承諾  
三米資金調達 US ニ依頼シテ French Indo-China 國ニ於テ金々 State

裏面白紙

大日本帝國政府

キハ不公平ナリトテ或ハ米

正金

(大)

折半取扱、或ハ手数料ヲ云々セルモ論議明確ナラズ當方ハ其ノ理  
由ナシトテ全面的ニ拒絶シ後者ハ當局ト相談可致ト返答シ微キタ  
リ、河内ニ於テ九七六〇一本  
由當地大使館ヨリ關及唐ルニ付大使館ト連絡轉送可俟

先方ハ協定ノ形式ヲ執ラズ交換文書ニ據リ應キ兼向ナルモ後日ノ

協定締結ヲ主張可致

輸入資金日本側手續輸入物資ヲ先方ニ知ラシムル機微ノ點アル故

同地ニ於ケル選給困難ト感ハルルニ付岡氏到着ヲ待テ當地ニ於テ

交渉再開不俾止ルベシ先方モ之ヲ希望セリ

就テハ本交渉月末マデ成立セザル場合來年初ノ米資金供給其他取

引ニテ支障ナカラシムルコトヲ約束セシメタリ

引ニテ支障ナカラシムルコトヲ約束セシメタリ

裏面白紙

大日本帝國政府

本件ニ關シ金井經彦ニ對スル頭取憑任狀手配相成度、以上河内へ  
電報請

(大)

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十八年十二月廿八日

大藏省外資局長 久保文麿 殿

橫濱正金銀行領取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

拜 啓

日佛印協定交渉經過ノ件（第二編）

協定交渉ニ關スル往復電報御參考迄ニ御移牒申上候

左 記

敬 具

○十二月二十一日附西貢電報（二十三日附彗信第一編ヨリ御移牒

ニ到スル當方返電

（十二月二十六日附頭取席發電）

「第四協定ニ關スル實電」ノ件

（小）

裏面白紙



# 大日本帝國政府

(小)

一 (米勘定整理ノ爲來年一杯存積ノ事)ノ了解ノ通り

二 (輸出前貸ノ事)ノ後電參照相成度

三 (米買付ノ事)ノ印度支那銀行介入絕對不可、手數料ハ最優ノ切札トシテ集中並許容差支無キ肚ナルモ前貸シノ交換條件ト致度。但シクザン同意ノ件ヲ強調スルノ余リ 97.901本トナル代リ印度支那銀行介入ノ口實ヲ與ヘザル機注意サラレ度、尙協定成立ヤザル場合ノ米買付等資金供給支障無ク實行ノ件當方文書ニヨル確約希冀ナリ。其記帳ハ協定成立後廻リテ調整スル條件ニテ凡テ假勘定ニテ處理ノコト

(十二月二十七日附頭取用電)

「前貸ノ件

一 先方主張 Ready For Shipmentノ勿論ノコト、輸出許可證發給

裏面白紙

# 大日本帝國政府

予條件トスル融資ニテハ時期ヲ逸シ事實上前貸ノ實效ナシ。  
勅クトモ協定品目ニ付テハ其金額ノ範圍内ハ無條件融資セシ  
ムル事トシ、尚信用狀附ノモノニ付テハ信用狀到着ヲ條件ト  
スル事大辭ノ業ナリ。

二就テハ實際上當方ノ前貸資金ヲ貸スル時期ニ付主要商品別ニ  
詳細報告セヨ

○十二月二十四日謝河内發

「方本一週賣ヨリ歸着早速面會シタルガ佛印當局目下預賣場在  
中予信用トシテ同地ニ於テ交渉繼續希冀セルニ付西貢支店申  
越モアリ、當地ニ於テハ交渉差控フル事トセリ。  
万ネ一ハ預賣場電ノ如ク協正ノ形式トスルコト絕對反對ニテ  
交渉交換ヲ主張シ張りタル處、所シク協項追加ヲ處レ厝ルモ  
ノノ如シ。  
入電文號子一ハ飛行機ニテ補貨ノ豫定。

(川)

裏面白紙

大日本帝國政府

當店小冊別支配人必要ニ憑ジ同地ニ出張可也

以上

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十八年十二月三十日

廣正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省外資局長

久 保 文 藏

神 啓

日佛印協定交渉經過ノ件（第三編）

議題ノ件並方ヨリ十二月廿九日付ヲ以テ現地宛在ノ如ク指示規程仕  
察間不取致御移録申上候  
敬 具

左 記

一六協定本月中ニ成立セサル場合ノ總覽附置ノ件

米賣金ハ添附リピアストル備リ金ト被課中相賜等細目決定ノ上  
題及對協定買配ノ米以外ノ日協定ハ本配額ヲ十シ一月中ニ交渉

裏面白紙

# 大日本帝國政府

成立セザル場合八月末  
シ先方ト取極相派降

1945. 08. 14

等ヲ成立後制及處理スルコトト

三、協定形式承諾セザレバ「各々政府ノ承認ヲ得テ協定ヲ更改スル  
モノナル」意ノ文書附加ノ上交換公文ニテモ總支離キモ、當方  
成ルベク協定希望

三、向今同ノ交渉ニ對スル當方根本意圖ハ

第一、米買付資金ヲ現狀ヨリ後退セシメアルコト

第二、前貸一般ヲ現狀ヨリ縮減セシムルコトニシテ、實質的強

保ニアルニ付交渉上必要トシテ、第二ヲ協定ヨリ切離スモ止

ムヲ得ザルベシ

四、金井經彦ニ對スル委任狀大東連首ヲ補シ、陸奥、南河内ニテ交  
渉ヲ續トスル場合モアルベキニ付、中川武雄委任狀如前

以上

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十九年一月六日

大藏省外資局長  
久保 文 藏 殿

積滯正命銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

拜 啓

日佛印協定交渉經過ノ件（第四號）

揭題ノ件ニ關シ弊國買支店ヨリ一月三日付ヲ以テ左ノ如ク入電有之  
候

一ガネート會談セル處

一米代金ニ關テハ佛印側見解一般貿易ト同様トシ爲替集中取扱ヲ  
ナスコトヲ主張スルモ、本邦側ガ飽迄政府間取極ニヨル特別商

裏面白紙



# 大日本帝國政府

前トシ、且本邦...  
此ヲ謂フトスレバ、註「一」以下電文不明...  
支那銀行ノ立憲トシテハ、勅令ニ依リテ...  
息ナルハ、前記五百萬圓以上...  
度ト申出アリ。  
前記、前記...  
前記、前記...  
右ハ米資金...  
前記、前記...  
十六年上半...  
復ハ...  
コト得テト考ヘラル。

裏面白紙

(四)



# 大日本帝國政府

編年

一、相澤文(内)米買付資金ニ關シテ

1、九七箇六〇渡調査、對應調査一表決定(甲)擬定

2、縣長會、縣長中、知事會

先有應請ノ議トシテ、(一)國ニ進出ニ問合可申(二)對罷ニ依ル先有申

出テ容レ、從來毎月取リ上ル一限隨定相殺機ノ取置萬國越越

額ノ特別開削定據込テ、隨時之テナス事ニ致ノ、其ノ爲ニ昭和十六

年五月六日行政府閣議定額二十四及、同年七月朔日付銀行調査才

協定額七條ニ改竊スルコトヲ閣議可申ニ付適宜有懸定ニ關ハラズ前

議ノ如ク續置スル層ノ支辨機被改置

一、右取置(一)會合決給額定借置ニ關シテハ、其地相屬通リ、書面交送

テ新案(一)協定額定借置ニ關シテハ、其地相屬通リ、書面交送

再向本協定額定借置ニ關シ同時ニ左ノ點考慮テ可要、

裏面白紙





大日本帝國政府

（一）  
（二）  
（三）  
（四）  
（五）  
（六）  
（七）  
（八）  
（九）  
（十）  
（十一）  
（十二）  
（十三）  
（十四）  
（十五）  
（十六）  
（十七）  
（十八）  
（十九）  
（二十）  
（二十一）  
（二十二）  
（二十三）  
（二十四）  
（二十五）  
（二十六）  
（二十七）  
（二十八）  
（二十九）  
（三十）  
（三十一）  
（三十二）  
（三十三）  
（三十四）  
（三十五）  
（三十六）  
（三十七）  
（三十八）  
（三十九）  
（四十）  
（四十一）  
（四十二）  
（四十三）  
（四十四）  
（四十五）  
（四十六）  
（四十七）  
（四十八）  
（四十九）  
（五十）  
（五十一）  
（五十二）  
（五十三）  
（五十四）  
（五十五）  
（五十六）  
（五十七）  
（五十八）  
（五十九）  
（六十）  
（六十一）  
（六十二）  
（六十三）  
（六十四）  
（六十五）  
（六十六）  
（六十七）  
（六十八）  
（六十九）  
（七十）  
（七十一）  
（七十二）  
（七十三）  
（七十四）  
（七十五）  
（七十六）  
（七十七）  
（七十八）  
（七十九）  
（八十）  
（八十一）  
（八十二）  
（八十三）  
（八十四）  
（八十五）  
（八十六）  
（八十七）  
（八十八）  
（八十九）  
（九十）  
（九十一）  
（九十二）  
（九十三）  
（九十四）  
（九十五）  
（九十六）  
（九十七）  
（九十八）  
（九十九）  
（一百）

（一）  
（二）  
（三）  
（四）  
（五）  
（六）  
（七）  
（八）  
（九）  
（十）  
（十一）  
（十二）  
（十三）  
（十四）  
（十五）  
（十六）  
（十七）  
（十八）  
（十九）  
（二十）  
（二十一）  
（二十二）  
（二十三）  
（二十四）  
（二十五）  
（二十六）  
（二十七）  
（二十八）  
（二十九）  
（三十）  
（三十一）  
（三十二）  
（三十三）  
（三十四）  
（三十五）  
（三十六）  
（三十七）  
（三十八）  
（三十九）  
（四十）  
（四十一）  
（四十二）  
（四十三）  
（四十四）  
（四十五）  
（四十六）  
（四十七）  
（四十八）  
（四十九）  
（五十）  
（五十一）  
（五十二）  
（五十三）  
（五十四）  
（五十五）  
（五十六）  
（五十七）  
（五十八）  
（五十九）  
（六十）  
（六十一）  
（六十二）  
（六十三）  
（六十四）  
（六十五）  
（六十六）  
（六十七）  
（六十八）  
（六十九）  
（七十）  
（七十一）  
（七十二）  
（七十三）  
（七十四）  
（七十五）  
（七十六）  
（七十七）  
（七十八）  
（七十九）  
（八十）  
（八十一）  
（八十二）  
（八十三）  
（八十四）  
（八十五）  
（八十六）  
（八十七）  
（八十八）  
（八十九）  
（九十）  
（九十一）  
（九十二）  
（九十三）  
（九十四）  
（九十五）  
（九十六）  
（九十七）  
（九十八）  
（九十九）  
（一百）

敬具

裏面白紙

# 大日本帝國政府

昭和十九年一月七日

橫濱正金銀行 顧取席  
總務部長 玉 伊 辰 良

大 藏 省  
外 資 局 長 久 保 文 藏 殿

拜 啓

日佛印協定交渉経過ノ件（第五號）

昨年十二月三十日附拜啓一錦印印出滞貨ニ對スル融資ノ件ニテ申  
述候河内支店ノ受ケタル輸出滞貨融資ノ佛印爲替集中關係取扱ニ就  
キ、河内ヨリ一月四日附ヲ以テ左ノ如ク當方指示通り取計フ可キ旨  
述候有之候

一關係荷物ハ輸出事前決済外國爲替買却ナル特種積式ニテ報告集中  
シタルモノニシテ無爲替輸出ヲ認容セシニハアラズ。將來當店ト  
シテハ虎齒發給ノ輸出證明書提出ノ義務アルモ買辦手形買取（併

裏面白紙

(木)

# 大日本帝國政府

灰石ニ關シテハ代金（支拂）ノ際ニハ再幣中ハ勿論報告モ致サズ  
其他貴電末段ノ趣旨ノ通りナリ

尙書方前貸必要時期ニ關シテハ、西貢支店回答ハ昨一月六日附發備

「日錦印協定交渉ニ關スル件」ニテ申邊候處、更ニ河内支店ヨリ左ノ

如ク入電有之候而御移譯申上候

「商品別前貸資金ヲ要スル時期左ノ如シ

六ヶ月、牛皮（Hides） 五ヶ月、漆三ヶ月、燐灰石、亞鉛錫、マン

ガニ（Crabs） 亞鉛水（Zinc） キサイト、クロム、松脂二ヶ月、佳皮一ヶ月、石

ハ海防ヨリ輸出可能ナル場合ヲ豫率トシタルモノニテ凡テ西貢關十

ル現狀ニ於テハ尠クトモ更ニ一ヶ月ヲ要スベク配船ヲ考慮ニ入ルル

時ハ時期ノ豫想ハ困難ナルモノト御承知相成候。」

大日本帝國政府

昭和十九年一月八日

前廣正金銀行領取部  
事務部次長 玉 伊 辰 良

大 蔵 省  
外 資 局 長 久 保 文 藏 殿

拜 啓

日佛為定交渉経過ノ件（第六號）

協議ノ件一月六日附添寫第百號ニテ御修録申上談面前來電ニ對シ、  
左ノ如ク指示被曉聞御報告申上談

一月七日附添頁宛 願取部發電

「附電ノ件

一、米費金九七圓六〇、無為替、無集中、細平數科ナラバ先方申  
出盡諸違支無之、

裏面白紙

(川)

19

大日本帝國政府

二(取極成立前米資金供給ニ關シ交換文書省略ノ事)差支無之、  
同(一)懸隔ト交換ニ前貸ノ件取極ニ挿入及融費範圍擴張方(前電參  
照)十二月廿八日付郵信中「前貸ノ件」主張相成趣」  
尚右電ト人レ違ヒニ西貢ヨリ左ノ如ク人況有之候間御參考迄ニ御  
移添申上候

一月五日附 西貢發電

一政府間米協定附屬公文中ニ印度支那銀行ノ正金ニ對スル米資金  
供給ハ佛印爲管理規程定ニ若干爲スベシトノ文句挿入方佛印側  
ヨリ大使館へ申出有之際唐トモ協議ノ上行ハ佛前電方米上ノ申  
出ニ拘ラズ猶米取引ヲ一級貿易ト同様取扱ハントスル魂膽ナル  
コト明カニシテ影響甚大ナルニ付之ヲ殺ホツケ嚴重ニ交渉シタ  
ル儀。佛印側代案トシテ 100000000 佛利息ナルヲ以テ之ガ特別  
借取ヲ考慮スベシトノ文句挿入方申出タリ、方米上ハ右ハ協定

裏面白紙

(川)



# 大日本帝國政府

ノ本行ヘノ申出ヲ意味スルニ過ギサルモ  
 原協定ニ規定セラルルヲ以テ政府交換公文申ニ押入ヲ主張セル  
 モノナリ、當店トシテハ不得止レバ $10\%$ 手数料供與指圖ヲ受ケ  
 沿ルモ弊前電ニハ指圖未着大使館トテモ同様ノ立場ナレバ右文  
 句交換公文押入ハ拒絶シタリ。總レドモ弊前電(1)ハ $10\%$ 手数料  
 ト日本側負擔大体同等ノ又ハソレ以下ナルコト並ニ前記申出ハ  
 必ズシモ無利息ナル *Account* ニ對スル特別措置ニ據ラズトモ  
 同等ノ利益供與ナレバ可ナリトノ意向ナルコト相確カノタル上  
 總領事ノ文書ニテ右指圖ハスベキ旨申送ル程度ニ止メ米協定本  
 日夕刻譯印ノ豫定ナリ。  
 就テハ弊電ニ對シ至急指圖相成度。  
 前記ノ通り日本側負擔 $10\%$ 手数料ヨリ幾分有利且手数料ヨリ名  
 目モ立チ國貨拂ニナルコトニモ有之且又印度支那銀行米取引介  
 入問題モ解消スルニ付右ト依リ銀行間交渉ヲ繰ムルコト得資ト  
 考ヘラル。

(本)

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十九年一月十二日

橫濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省  
外資局長 久 保 文 藏 殿

拜 啓

日佛協定交渉經過ノ件（第七號）

掲題ノ件ニ關シ弊頭取席西資支店間ニ左ノ如ク電報往復仕候間不取  
敢御移添申上候  
敬 具

記

一月六日付西資支店發電

「政府間米協定昨夕編印輸出最低量九〇〇〇〇噸（前年度積糶分  
ヲ含ム）價格前年度ノ二五%増シ stop

（小）

裏面白紙

# 大日本帝國政府

Export advance

ニ就テハガネート鐵鐵交渉シタルモ

Ready for shipment

ト輸出許可證取得済ノ原則ヲ一歩モ譲ラズ併シ乍ラ貴國問題トシテハ輿地關係所在ノ鑛灰石ノ如キニモ資金供給ヲ應諾セリ  
購テハ目下ノ鐵銀行間交渉トシテハ個々商品ノ取引様式ニ從ヒ範圍ヲ有利ニ廣ノ行ク外輸之買付資金ヲ當マシムル等原則的解決ハ外交交渉ヲ經ザレバ望ナキヲ以テ政府間米協定續印濟ノコトニモ有之米關係ノ一切難シ甚急爲定妥協シ Export advance 問題ハ再察資金ト共ニ更ニ交渉繼續ノコトト改定其ノ他ノ點ハ昨亂七六號以外問題ナシ尙協定形式ハ先方ノ交換公文主眼セルモ諸會ノ上第一協定追加協定トシテ署名スルコトト改定

一月十日付照取附發電

「前貸資金問題ハ協定條四條ノ解釋ニ關スル從來ノ係争ヲ一擧ニ解決スル救通ノ機會ト信ズルヲ以テ感力交渉希望、出來得レバ大使府方

裏面白紙



大日本帝國政府

面ヨリモ側面約ニ發効ヲ乞ヒ錯々實働方努力相成哉  
右ニ于簡要精見込ナクハ貴國ノ通リ取極止ムヲ得ザルベシ

以上

裏面白紙

# 大日本帝國政府

昭和十八年十二月三十日

大藏省  
外務局長 久保文藏 殿

換正金銀行頭取席  
總務部次長 玉伊辰良

拜啓

佛印輸出滞貨ニ對スル融資ノ件

貴府種々御高配賜居候様週ノ件十二月二十八日附子以テ弊河内支店  
ヨリ融資實行ノ趣左ノ如ク入取有之候

一 輸出滞貨ニ對スル融資ノ件

又那向高品ト在山元類石(?)ヲ除キ、廠ハ緩増地ニアルモノヲ  
含ミ約三五〇萬比佛本日實行、右ヲ以テ再割決済セリ  
尚右融資ハコンマ―シヤル(日勘定)ヘノ案中ノ形式ヲ以テ行ヒ

(本)

裏面白紙

# 大日本帝國政府

タリ。」

右資金調達は、兼中形式ハ現下ノ協定交渉ニモ關係有之ニ付折返シ左ノ如ク富方ヨリ現地函員、河内南支店宛打電或置候間此致御了承被下度候

「輸出滞貨總資 $\frac{1}{2}$ %兼中ニテ行ヒタル由、關係荷物ハ無爲替ニテ輸出セラルルモノト了解ス

此種無爲替扱先方容認セルモノトセバ弊通一室ノ例十二月十日附發信（井上拂行）注ヲ（一）ノ趣旨ニ合致スルヲ以テガ本一先年ノ米交渉ノ終既ニ了承シ居ル感ナルドモ協定交渉其他將來ニ亘リ一貫主張シ

(1) 何物輸出ノ際手形取組再兼中

(2) 臨二重毀

(3) 半數料二重拂

トナラサル候留意相成度。」

敬具

裏面白紙

横濱正金銀行



明治十九年二月四日

島替課

崎谷事務官殿

外貨部長 久...

横濱正金銀行

島替課

主

係

員

紙

日...

...

...

二月六日

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

裏面白紙



大藏省外資局

為督課 崎谷事務官殿

昭和十九年二月一日

（附 債 金 銀 行）

債 止 金 銀 行 頭 取 席

總 務 部 次 長 玉 伊 辰 良

大 藏 省 外 資 局 長 久 保 又 藏 殿

并 啓

日 佛 印 協 定 案 文 及 一 關 定 交 涉 經 過 第 十 一 號

協 定 案 文 一 月 廿 六 日 付 郵 信 一 第 十 號 一 ヲ 以 テ 御 送 附 一 何 分 ノ 御 出 示 仰 直 候 處 一 其 後 現 地 ヲ リ

一 前 述 文 脫 漏 箇 所 補 正 一 第 五 條 及 第 七 條 一

二 銀 行 間 第 一 協 定 附 屬 協 定 二 關 聯 シ 本 代 金 ノ 辦 手 料 收 據 二 關 ス ル 河 内

正 金 宛 印 庫 支 那 銀 行 支 配 人 發 附 案

入 電 有 之 候 間 早 速 御 移 添 申 上 候

就 而 前 記 弊 前 信 卜 併 セ 呈 誌 仰 審 議 ノ 上 協 定 調 印 ノ 儀 御 承 認 賜 度 此 段 御 願

申 上 候

敬 具

裏面白紙



(横濱正金銀行)

協定案文修正、(添録面別圖電不完全)

第五條 一九四三年十二月三十一日ニ於ケル印度支那銀行特別當座預金  
勘定 (B%) ノ貸方残高ハ、一九四一年五月六日東京ニ於テ日本國政  
府佛國政府同ニ調印セラレタル「日本國印度支那間關稅調度及其ノ決  
濟ノ様式ニ關スル協定」第二十三條ノ規定ニ基キ、一九四四年ニ繰越  
サレ印度支那銀行四頁一割勘定 (G%) ニ振替ラル、モノトス。

上記特別當座預金勘定 (B%) ハ一九四四年十二月卅一日閉鎖サルベ  
ク當日ニ於ケル貸方残高ハ年二分八分ノ三ノ割合ヲ以テ同年中加算セ  
ラレタル利息ト共ニ印度支那銀行四頁一割勘定 (G%) ニ振替ラルベ  
シ。

第七條 本協定ハ印度支那銀行及横濱正金銀行ニヨリ夫々ノ當該旨意ニ  
通告セラレ、ソノ承認ヲ得タル上ハ一九四四年一月一日ヨリ效力ヲ發  
生スルモノトス

一九四四年 月 日 二於テ三通作成ス

三 銀行間第一協定附屬協定ニ關聯シ米  
 代金ノ勝手收付取扱ニ關スル横濱正  
 金銀行河内支店宛印度支那銀行支配  
 人發書謝答

四 貴庭在鈴木總領事ト佛印經濟局長目トノ間ニ行ハレタル一九四四年度  
 中佛印ヨリ日本へ輸出セラレベキ不及其副産物ノ引渡ニ關スル協定交渉ニ  
 當リ、印度支那銀行ハ、之ニ關スル「一般協定」ノ特殊制即チノ無利  
 息協定ナル點ニ就キ特ニ注意ノ拂ハル可キ事ヲ要請セリ

鈴木總領事ハ本協定署名ノ際ニハ右ノ事情ヲ考慮スベキ旨特ニ書回ヲ以  
 テ經濟局長官宛通知セリ

右事情ニ基キ横濱正金銀行及印度支那銀行ハ之ニ關スル「一般協定」ノ  
 相殺ハ今後一九四一年五月六日付「關稅制度及其他ニ關スル日佛間協定」  
 ニ規定セル限度ニ達シタル都度實行セラレベク、相殺ハ月末ニ限定セガ  
 ルベキ事ヲ協定セリ、

右ノ結果横濱正金銀行東京支店ニ於ケル印度支那銀行ノ「一般協定」ニ

生ズベキ一切ノ貸方残高ガ、五百萬圓ヲ超過スル時ハ右超過金額ハ前記  
相殺方法ニ基キ自動的ニ「特別國庫定」貸方ニ振替ラルベシ。  
實行ハ富行へ、以上ノ洩リ處地スベキ権能ヲ有スル旨ヲ聲明シタリ。右  
ハ佛印官憲ガ、日本政府へ、佛印ヨリ日本へノ不及具ノ副産物ノ引渡ニ  
對スルピアストル代金ノ圓貨額交付ヲ電信爲替ニヨリ決済スベキコトヲ  
前記トシテ、一切無手数料ヲ以テ實行スベキ事ヲ承諾シタルニ基ク。  
富行ハ右ノ趣ヲ佛印總督府ニ通告セリ。全總督府ハ富行ガ右ニ對シ同意  
ヲ表明スベキ事ヲ承認セリ

以上



裏面白紙

横濱正金銀行  
頭取席爲替部

河内ヨリ 一月廿六日發  
別電、米代金照子紋料ニ關スル畫信ハ形式上方率一署名スルモ  
ノナレド大使照ヨリ更ニ總督府ニ Col. 11 日 丁ル管ナリ

裏面白紙

(横濱正金銀行)

昭和十九年一月十九日

為替課

谷事務官殿

外貨部 入 込 又 帳 簿

拝 領

日印印又送起ノ旨(第九号)

先起ノ旨和才方刃今トシトサシ同内ニ送キタル爲分ヨリ同内ニテ

又送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ又送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ

一頁紙(押印始人送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ又送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ)

送起ノ旨或トハルコト、シテ送メタリ、又ニ予也ニ付同内ノ上送又

一月二十日同内ニテ送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ又送起申上ノ旨トシトサシ同内ニテ

切シタリ



裏面白紙

（横濱正金銀行）

昭和十九年一月十五日

為替課

崎谷事務官殿

横濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省  
外資局長 久 保 文 藏殿

5

拜 啓

日佛交渉経過ノ件（第八號）

揭題ノ件交渉繼續中ノ處先方協定ニ離出前貸ノ件ヲ挿入スル事承諾セザルニ付、貴意拜承ノ上、一應之ヲ切離シ米關係ノミニ付協定締結スベキ旨現地宛指圖仕候間御了承賜度併而關係往復電報茲許御移牒申上候

敬 具

西貢ヨリ 一月十一日發

一協定ニ前貸挿入ノ件

貴前電（弊信第七號ノ分）末段ニ基キ當方重キテ主張セルモ先方 弊前電（弊信第七

(横濱正金銀行)

券ノ分)以上譲ラズ

併シナカラ難出許可證ハ...ハ出金ニ限在スル...ノモノニハ下附ス  
ベク...ハ出金ニ限在スル...ノモノニハ下附ス

變換依然繼續スルトシテ今般ノ協定ヨリ切離シ米關係ノミ先方申出  
ヲ調整シテ安部程度至急指圖相成度。爲念電報ス。

先方申出ハ本年一月一日以同G湖定幾高五〇〇〇〇圓以上ニ達  
セル場合ハ其部度特別調整定ニ振替ブルモノナリ、

河内、西貢へ 一月十四日發

一、止ムヲ得サルニ付費電ノ通り取計差支ナシ但シ別ニ前貸問題ハ交  
渉繼續スル旨ノ一方的申入ヲナシ置カレ度

二、米穀ノ件G協定相殺ノ上五〇〇〇〇圓以上ニ達セル場合ト了  
解ス

三、協定形式ハ番號序列ヲ單純ニスル爲「第四協定」ト呼ゾラ可トス

裏面白紙

備前正金銀打

ルモ宛方取知セザレバ一帛一勘定附録協定ニテモ差支無之内容  
政府間協定更改ニモ及ブ事ナレバ交際公文ハ不明  
両方協定案文全無備前セヨ

裏面白紙

昭和十九年一月十二日

為塔課

崎谷事務官 殿

梅濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省  
外資局長 久保文藏 殿

拜啓

日佛協定交渉經過ノ件（第七號）

掲題ノ件ニ關シ弊館取席西貢支店間ニ左ノ如ク電報往復仕候間不取敢  
御移牒申上候  
敬 具

記

一月六日付西貢支店發電

「政府間米協定昨夕調申輸出最低九〇〇〇〇噸（前年度積殘分ヲ  
含ム）價格前年度ノ二五%増シ」  
dots

裏面白紙

Export advance

ニ就テハガホトト嚴重交渉シタルモ

Resort for

shipment

ト輸出許可證取得済ノ原則ヲ一步モ譲ラズ併シ乍ラ實

際問題トシテハ奥地驛所在ノ購灰石ノ如キニモ資金供給ヲ應諾セリ  
就テハ目下ノ處銀行間交渉トシテハ個々商品ノ取引様式ニ從ヒ  
ヲ有利ニ成メ行ク外無之買付資金ヲ含マシムル等原則的解決ハ外交  
交渉ヲ經ザレバ望ナキヲ以テ政府間米協定調印済ノコトニモ有之米  
關係ノミ切離シ至急協定妥協シ EXPORT ADVANCE 問題ハ專業資金ト  
共ニ更ニ交渉繼續ノコトト致度其ノ他ノ點ハ第電七六號以外問題ナ  
シ

尙協定形式ハ先方ノ交換公文主張セルモ詰合ノ上第一協定追加協定  
トシテ署名スルコトト致度

一月十日付頭取席發電

「前貸資金問題ハ協定第四條ノ解釋ニ關スル從來ノ係争ヲ一舉ニ解決  
スル最適ノ機會ト信スルヲ以テ極力交渉希望、出來得レバ大使府方

面ヨリモ側面的ニ援助ヲ乞ヒ槽々真徹方努力相成度  
右ニ方尚安結見込タクバ貢電ノ通り取極止ムヲ得ザルベシ

以  
上

裏  
面  
白  
紙



裏面白紙

廣濟金銀行

昭和十九年一月八日

為替課

濟谷事務官殿

似此金銀行頭取局

總務部長

入 外貨局長 久保 又 敬 啟

拜 啓

日歸助定父涉經過ノ件(第六號)

前送ノ件一月六日附外幣局第四號ニテ御移添申上候西貢來電ニ列シ、左ノ如ク指示致候間御報告申上候

一月七日附西貢宛 頭取席電

一貫電ノ件

(一) 本會金九七圓六〇 宛、點為會、照案中、無于致付ナラハ先方申出懸

諸送支兼之、

□ 一取應成立前本會並其相ニ關シ父候文首省略ノ事一送文兼之、

向（一）應請ト交換ニ前貸ノ件取極ニ押入及融會軌由類成力（前記參照ト）  
十二月廿八日付弊信中「前貸ノ件」ニ主張相成度

向右龜ト入レ退ヒニ四頁ヨリ左ノ如ク入地村之候間御診考迄ニ御移座  
申上候

一月五日附 西真發也

一政府間不協定兩勅公文申ニ印及文那銀行ノ此並ニ到スル小口金供稱  
ハ佛印給管管陸規正ニ迄平為スベシトノ~~ハ~~句押入方佛印由ヨリ入度  
謂ハ申山有之當店トモ、協談ノ上右ハ弊則電方平ノ申山ニ拘ラ不指  
不取引ノ一取買勿ト同録取返ハントスル魂屬ナルコト明カニシテ影  
響甚大ナルニ付之ヲ滅不ツケ處事ニ交渉シタル處。佛印則代表トシ  
テ「No Account」 無利息ナルヲ以テ之ヲ符別頂直ヲ考味スベシトノ又句  
押入方申山タリ、乃平トハ右ハ遊取ノ本行ヘノ申出ヲ意味スルニ感  
キザルモ「No Account」 取管 時期原協定ニ規定セララルヲ以テ政府交

俟公文申ニ押入ヲ主成セルモノナリ、當后トシテハ小待止レバ、  
 於科供與宿園ヲ受ケ居ルモ、  
 場ナレハ右又何交俟公文押入ハ担配シタリ。然レトモ、  
 于銀科ト日本側貸請大伴同等ノ又ハソレ以下アルコト並ニ前記申山ハ  
 必スシモ無利忌ナルニ到スル特別償直ニ徴ラストモ同等ノ  
 利益供與アレハ、  
 ニテ右考慮ハスベキ旨申込ル在成ニ止メ不協定本日夕刻前印ノ  
 リ。

此テハ弊電ニ到シ至急宿園相成度。

前記ノ通り日本側貸請為テ手銀科ヨリ減分有利且手銀科ヨリ名目モ立  
 テ國貨券ニナルコトニモ有之且又印成支那銀行券取引弁入同モ解消  
 スルニ付右ニ依リ銀行間交渉ヲ極ムルコト得成ト考ヘラル。



昭和十九年一月七日

為替課

崎谷事務官 殿

大藏省

外資局長 久保文藏 殿

横濱正金銀行 頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

拜 啓

日佛印協定交渉経過ノ件（第五號）

昨年十二月三十日付緊信「佛印輸出滞貨ニ對スル總督ノ件」ニテ申述  
候河内支店ノ受ケタル輸出滞貨總督ノ佛印爲替集中關係取扱ニ就キ、  
河内ヨリ一月四日付ヲ以テ左ノ如ク當方指示通り取計フ可キ旨電報有  
之候

「關係何物ハ輸出前決濟外國爲替賣却ナル特種様式ニテ報告集中シ  
タルモノニシテ概爲替輸出ヲ認容セシニハアラス。將來當店トシテ  
ハ稅關發給ノ輸出證明書提出ノ義務アルモ實際手形買取（辨灰石ニ  
關シテハ代金ヨリ支拂）ノ際ニハ再集中ハ勿論報告モ致サズ其他費

電末段ノ趣旨ノ通りナリ

向當方前貸必要時期ニ歸シテハ、西貢支店回答ハ昨一月六日付弊信一  
日佛印協定交渉ニ關スル件ニテ申進候處、更ニ河内支店ヨリ左ノ如  
ク入電有之候間御移牒申上候

「商品別前貸資金ヲ要スル時期左ノ如シ」

六ヶ月、牛皮、五ヶ月、漆、三ヶ月、燐灰石、錫、マン  
ガニ、鐵、銅、ホ、キ、サイ、ト、ク、ロ、ム、松脂、二ヶ月、桂皮、一ヶ月、石  
ハ海防ヨリ積出可能ナル場合ヲ際率トシタルモ、凡テ西貢總ナ  
ル現狀ニ於テハ勝クトモ更ニ一ヶ月ヲ要スベク配船ヲ考慮ニ入ル、  
時ハ時期ノ確想ハ困難ナルモノト御承知相成度」

廣濟金銀行

昭和十九年一月六日

鳥替課

崎谷事務主任殿

大 塚 省  
外資局長 久保 文 殿

廣濟金銀行 取締役  
事務部長 玉 伊 辰 良

時 際

日佛印協定交渉準備ノ件（第四號）

前記ノ件ニ關シ郵政省ヨリ一月二日付ヲ以テ左ノ如ク入館有之候  
「万本」ト書換セル處

一 米代金ニ關テハ佛印協定ノ一般貿易トシテ協定中取扱ヲア  
スコトヲ主張スルモ、本邦側カ泡沓政府由取扱ニヨル特別商品ト  
シ、且本行モ、...ニテ決計シ何等利益享有シ居ラサルヲ專重  
トスレバ（註）且「...」以テ「...」印度支那銀行ノ立  
場トシテハ懇ク其、（註）冠ニ及込レ月未迄懸持身ナルハ因ル故



裏面白紙

(廣濟其金銀行)

五百萬圓以上を以てレバ領一別  
見、全總電報セヨ。

田原万石、諸スレバ全領一別ノ領下、  
ハ米費無間、ニテ日奉領下ノ豫探ヲ  
ハ米費無間、ニテ日奉領下ノ豫探ヲ  
ハ米費無間、ニテ日奉領下ノ豫探ヲ

二、新設、立地、下、米代、登、切、ハ、  
能上、半、季、ニ、為、シ、ル、事、ハ、  
居、レ、リ、ハ、此、種、事、ノ、了、解、ト、  
ハ、ル、ル、。

覽面

一、右、電、又、同、本、首、付、會、社、ニ、  
上、ハ、レ、種、ハ、レ、被、測、定、。 對、應、  
之、無、為、答、。 據、集、計、。 據、字、  
究、方、願、諸、ノ、意、ト、セ、バ、(此、ノ、  
究、方、願、諸、ノ、意、ト、セ、バ、(此、ノ、



裏面白紙

廣濟誠金銀行

出ラ容レ、從來前且未ナシ居リタル一證、約定租銀後ノ五百萬圓超過額  
ノ特別勸助定額込ラ、臨時之ヲナス事ニ決メ、ソノ爲ニ前租十六萬五  
月六日付政府西協定第二十四條及全年七月四日付銀行間第一協定第七  
條ニ其額入ルコトトテ、取可申ニ付、諸宜右申定ニ據テ、大前年ノ如ク借  
費スル旨ノ文書交際取致

二、右電又口會金世、皆爲定借額ニ歸シテハ、現地申取由リ、諸商交際ヲ省  
略單口協定交渉促進ヲ計ル事、可然ト致存候、

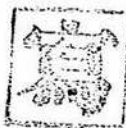
三、前不協定交渉ニ關シ全時ニ左ノ點迄申ラ可候

一、輸出協定書ハ、過日發行セラレタルニ、十二月廿日付弊債一併申出  
海軍ニ對スル勸告ノ件一御參照相成度一先方許容條件ニ、前年協定書ノ  
要了ルニ付、五百萬圓超過額御覽取申候旨、先方許容條件ニ、前年協定書ノ  
要了ルニ付、且御覽取申候旨、先方許容條件ニ、前年協定書ノ要了ルニ付、  
就而右取ラ以テ弊商百五萬圓指示致取、概能御覽取申候旨、先方許容條件ニ、  
上候

敬具







昭和十八年十二月三十日

崎谷事務官殿

横濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大 藏 省  
外資局長 久保文藏 殿

拜 啓

日佛印協定交渉経過ノ件（第三號）

揚越ノ件當方ヨリ十二月廿九日付ヲ現地宛左ノ如ク指示發電仕候間不  
取敢御移牒申上候

左 記

敬 具

一、協定本月中ニ成立セザル場合ノ過渡措置ノ件

米資金ハ差當リピアストル借リ金ト致置キ相場等細目決定ノ上週  
及對應圖貸記、米以外ノG勸定ハ本記帳ヲナシ一月中ニ交渉成立  
セザル場合ハ月末 31日 等ヲ成立後廻及處理スルコトトシ先方ト

裏面白紙

裏面白紙

取極相成度、

三協定形式承認セザレバ「各々政府ノ承認ヲ得テ協定ヲ更改スルモノナル」意ノ文言附加ノ上、又、公文ニテモ差支無キモ、當方成ルベク協定希望

三、尙今回ノ交渉ニ對スル當方根本意圖ハ

第一、米買付資金ヲ現状ヨリ後退セシメサルコト

第二、前貸一般ヲ現状ヨリ前進セシムルコトニシテ、要ハ實質的確保

ニアルニ付交渉上必要ナラバ第二ヲ協定ヨリ切離スモ止ムヲ  
得サルベシノ

四、金井經彦ニ對スル委任狀大東亞省ヲ通シ發送済、尙河内ニテ交渉ヲ使トスル場合モアルベキニ付中川武雄委任狀如舊

以上

裏面白紙

(横濱正金銀行)

昭和十八年十二月廿八日

為替課

崎谷事務官殿

横濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大 敬 省  
外資局長 久保文藏殿

拜 啓

日印協定交渉経過ノ件(第二號)

揭題交渉ニ關スル往復電報御參考迄ニ御移牒申上候

左 記

敬 具

○十二月二十一日附西貢電信(二十三日附幣信第一號ニヨリ御移牒)

ニ對スル富方返電

(十二月二十六日附頭取席發電)

「第四協定ニ關スル貴電ノ件

(一) 米勘定整理ノ爲來年一杯存積ノ事一了解ノ通り

(二) 輸出前貸ノ事一後軍參照相成度

(三) 米貸付ノ事一印度支那銀行介入絶對不可・手數料ハ最後ノ切札

トシテ集中並許容差支無キ肚ナルモ前貸シノ交換條件ト致度。但

シクザン同意ノ件ヲ強調スルノ余リ 27.60 一本トナル代リ印度支

那銀行介入ノ口實ヲ與ヘザル儀出意サレ度。

尚協定成立セザル場合ノ米貸付等資金供給支障無ク實行ノ件當方

文書ニヨル確約希望ナリ。

其記帳ハ協定成立後廻リテ調整スル條件ニテ凡テ假勘定ニテ處理

ノコト

(十二月二十七日附頭取席發電)

「前貸ノ件

(一) 先方主張 Ready for shipment ハ勿論ノコト。輸出許可證發給ヲ原

件トスル謬誤ニテハ時期ヲ逸シ事實上前貸ノ實効ナシ。紛クトモ



協定品目ニ付テハ其金額ノ範圍内ニ條件總額ヲシムル事トシ、  
尚信用狀附ノモノニ付テハ信用狀到着ヲ條件トスル事、次善ノ策ナ  
リ。

(二) 就テハ實際上富方ノ前貸資金ヲ要スル時期ニ付主要商品別ニ詳細  
電報セヨ。

○十二月二十四日附河内發電

「ガネー」西貢ヨリ歸着早速面會シタルガ佛印當局目下西貢滞在  
理由トシテ同地ニ於テ交渉繼續希望セラルニ付西貢支店申越セアリ。  
富地ニ於テハ交渉差控フル事トセリ。

ガネーハ西貢前電ノ如ク協定ノ形式トスルコト絶対反對ニテ文書  
交換ヲ主張シ居リタル處、新シク曉諭追加ヲ處レ居ルモノハ如シ。  
(電文脱字)ハ飛行機ニテ歸貢ノ豫定。

富店小野副支配人必要ニ應ジ同地ニ出張可致。

以上



昭和十八年十二月二十三日

為替課

崎谷事務官殿

横濱正金銀行頭取席  
機務部次長 玉 伊 辰 良

大 藏 省  
外資局長 久 保 文 藏 殿

拜 啓

日御印協定交渉経過ノ件（第一號）

竊行對印支那銀行間第四協定ノ件豫前御來示賜居候方針ニ基キ交渉  
開始方并打現地支店へ手配済ノ處河内翌燦ニヨリ先方トノ連絡不如意  
ノ爲メ西貢ニ於テ交渉開始ノ趣左ノ如ク申越候間不取敢御移牒申上候

敬 具

左 記

○西貢ヨリ 十二月二十一日發  
二十四日着

第四條定ノ件  
ガ亭一乘西後暹日佛印海邦會議ニ列席シ居リシ爲昨夕迄二回短時間會  
見シ待タルノミ且先方準備ノヒマナク交渉充分進捗セザル内今朝河内  
向ケ出發セリ經過左ノ通り

(一) 同氏ハ第二協定發表後モ米勘定ハ整理ノ爲メ來年一杯存續  
Cash  
10/0 へノ各月振替並ビニ利率年々3%從來通りト了解スルガ如何トノ  
質問アリ此點質問席へ照會ノ上回答スベシト申述ベタルニ付返電相成度

(二) EXPORT ADVANCE へ 100% 以上ノ海港又ハ河港ニ在ル  
トシテ佛印ノ海港又ハ河港ニ在ル  
EXPORTABLE GOODS 100% FOR ADVANCE へ 對シ適宜 100% 以上資金供給スベ  
キモ文書ニ挿入ヲ肯ゼズ 買付前融資ハ買付後ニ承認ス

(三) 米資金調達 COME 2 種類シテ FRENCH INDO-CHINA 關ニ於テ益ク SUPPLY ナキ  
ハ不公平ナリトテ或ハ米 BUSINESS ノ正益 100% de l'Indo-China  
ト折半取扱、或ハ手数料ヲ云々セルモ論據明確ナラズ當方ハ前者ハ其

裏面白紙

ノ理由ナシトテ全面的ニ拒絶シ後着ハ當局ト相談可致ト返答シ置キ  
タリ、河内ニ於テ北<sup>九七六</sup>一<sup>六</sup>本 *General Account* 使用クザン同意セ  
ル由滿洲大使館ヨリ聞及居ルニ付大使館ト連絡善處可致  
先方ハ協定ノ形式ヲ執ラズ交換文書ニ據リ度キ意向ナルモ後日ノ爲  
協定締結ヲ主張可致

(四) 輸入資金日本制手續輸入物費ヲ先方ニ知ラシムル機微ノ點アル故種  
入差控タリ猶有ネ、八月末來賣豫定ナルモ河内ノ現狀ニテハ同地ニ  
於ケル運給困難ト思ハル、ニ付岡氏側着ヲ待チ當地ニ於テ交渉再開  
不待止ルベシ先方モ之ヲ希望セリ

就テハ本交渉月来マデ成立セザル聯合來年初ノ米資金供給其他取  
ニハ支障ナカラシムルコトヲ約束セシメタリ事情右ノ通りニ付本件  
ニ關シ金井總彦ニ對スル函取委任狀手續相成度、以上河内へ電報濟

裏面白紙





崎谷兼芳官殿

昭和十九年一月十二日

大藏省外資局

總務課長 伊原

隆殿

橫濱正金銀行頭取席

總務部次長 玉

伊

辰

良

并啓

佛印資金窮迫ニ對スル特別措置ノ件

佛印ニ於ケル弊行各店資金繰窮屈ノ結果過般來諸種ノ御配慮相煩ハシ  
居候處當年度ニ於テモ軍費ヲ初メ諸支拂愈々増嵩ノ見込ナルニ拘ハラ  
ズ佛印側ノ資金供給ハ頗ル圓滑ヲ缺ク實情ニテ誠ニ憂慮ニ堪ヘザル次  
第二有之、現地ニ於テモ百万方苦慮ノ結果本日左記ノ如キ電信接受仕候  
右ハ要スルニ

(1) 軍納米代金ヲモ協定勘定（G勘定）利用比貨資金調達、軍ヨリ代金  
（比貨）ノ交付ヲ受ケタルトキハ其儘之ヲ現地ニ保留流用スルコト

裏面白紙

裏面白紙

儲蓄金銀行

農商省一元買付券實行ノ上ハ同省ヘノ納付金ハ三井物産、正金銀行  
協議ノ上圓資調達スルコト

(四) 大藏省許可濟ノ佛印向邊金ヲ比貨表示トシ現地ニテハ前項保留金中  
ヨリ之ヲ支拂ヒ其使途ヲ嚴重ニ監督スルコト

右送金代リ圓額ハ前項末段ノ調達圓資償却ニ充當スルコト

(六) 前二項ノ比貨受拂ハ内地ニ於テ大藏省ニ爲替集中ヲ行フコト

(二) 隨テ現地ニテハ爲替ヲ起サズ、佛印集中機構キハ内密ヲ實行スルコト

ニ有之、勿論西貢支店申越ノ通り全ク謀略的隱密行動ト相成ル次第ニ

テG勘定利用巨額ニ上ル結果疑惑ヲ招ク惧ナシトセズ且ツ他日輸出證

明書提出等ノ問題ヲ醸ス餘地モ有之哉ニ被考候得共日佛印協定第四條

援用ニ對スル佛印側態度誠意ヲ缺ク現狀ニ於テハ萬一ニ備ヘ斯ル措

置モ亦止ムヲ得ザル可ク御審議ノ上何分ノ御指示相煩シ度此段及御願

候

Handwritten notes in the left margin, including the characters '上' and '候', and various illegible cursive text.

Handwritten signature or date at the bottom center.

尙電報末段三井物産關係ニ就テハ全社トモ打合セ改メテ御配慮御願可  
申上不敢御移牒ニ止メ置候  
敬 具

左 記

一月十日 西貢支店發電

「本電極秘

資金問題ノ解決ハ未拂送金許可獲得ヲ込メ至難・殊ニ本年度軍費ノ  
關係モ有之今後交渉ハ益々望薄ナリトハ大使館當局南北一致セル意  
見ナリ、既テハ本年度民間資金（上半季ダケニテ約五〇〇〇〇〇〇  
〇<sup>ト也</sup>）何等カノ方法ニテ用意スルヲ要スル破目トナリ大使館ニ於テ  
モ憂慮シ當店ト協議シ居レルガ左記本案研究中ナリ

（一）米代金ノ農商省一元決濟（軍納入米ヲ込ムル）案ヲ促進實現セシ  
ム

（二）軍納入米軍費決濟繼續

（三）ニ基ク三井物産ノ本邦向送金ハ實際ニ取組不申 *Prasire* ヲ當店

ニ振込本行ハ先方口雜勘定經由東京支店ニ就テ三井物産ニ代リ圓價ヲ支拂フ

(四)右比弗資金ハ大藏省ノ許可ヲ受ケタル比弗送金ノ支拂資金ニ充當シ  
大使館當店中心ニテ之ガ使途監督ス

大体上記ノ骨子ナルガ結局本案ハ(三)ニ據ル本行圓對價比弗買持(本年  
中一〇〇〇〇〇〇〇〇比弗ノ見込)ヲ大藏省ニ爲替集中(四)ニ據リ買持  
減少セシムルノラインヲ取ルコトトナルベク(四)ノ場合貴席勘定貸付金  
トシテ融資貫席ニテ相手方ニ比弗賣渡約ヲナスノ方法モ考究セララル

右ハ聊謀略的ナレドモ此位ノコトヲ用意シ置カザレバ本邦側重要事業  
枯死セシムル虞アリ正式ニ資金交渉依然繼續スルトシテ本案考慮セル  
モノニ付右ノ事情承解ノ上當局共連絡シ貴見御回示相願度

本件大使館ヨリモ電報可致  
以下參考迄ニ電報ス

三井物産ハ目先緊急ニ備フル爲大使館ト協議ノ結果左記本社へ請訓セ

リ前記措置其他ノ對策成立マデ默認ノ外ナカルベシ

I Batschbarh (Ostprovinz)

米諸掛送金五八九八九〇圓爲替許可外交交渉モ全ク見込ガキニ付政  
府米倉庫渡分R勘定ニテ決濟後、軍納ト變更當地ニテ軍費支拂受入  
レ濟分約八〇〇〇〇〇比弗ト極秘裡ニ相殺

三、秘出廻期切迫精米所秘資金最高五〇〇〇〇〇〇比弗迄必要一月中陸  
軍納入米代約六〇〇〇〇〇〇比弗内地決濟スル一方陸軍ヨリ入金シ  
タル比弗ノ内地向回金ヲ延期艱通ス

右河内へ電報濟

裏面白紙

大藏省外貨局  
為替課 山本 谷子 務官 殿

昭和十九年一月十九日

(横濱正金銀行)

61

横濱正金銀行 頭取 席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省  
外貨局長 久保 文 殿

拜 啓

御印査交渉ニ關スル河内支店  
書信御移牒ノ件

根拠ノ件ニ關シ弊河内支店ノ大使府表印經濟部長宛十二月一日及三日  
付書信寫送付有之候間御參差迄ニ御移牒申上候  
敬 具

209  
X  
1/1  
9

昭和十八年十二月一日

大 使 府  
兼 田 經 濟 部 長 殿

積 蓄 正 金 銀 行 河 內 支 店  
支 配 人 席 印

銀行資金交渉ニ關スル佛國側回答並ニ右ニ基ク佛印側態度ニ付テノ當  
店見解左ノ如シ

一 輸出商品滞貨ニ對スル資金提供ノ件

佛側回答ニ於テハ

(イ) 在佛印諸商社ニ特ニ邦商トセズ一ガ佛印ニ於テ日本向輸出ノ爲メ  
買付タルモノタルコト

(ロ) 輸出許可獲得済ナルコト

ヲ條件トシ特別對價對價ビアストル資金ヲ公定相場ニヨリ印度支那銀

裏面白紙

行ハ正金銀行ニ提供スベシトアリ然ルニ右ニ基キ印度支那銀行ニ甲  
込ミタル處更ニ次ノ條件ヲ要求セラレタリ、即チ

「買付ケタル商品ハ單ナル賣買契約成立ノミナラズ現貨ニ物資ノ受  
渡ヲ了シ且其商品ガ海港（ハイフオン）ノ如シ）又ハ河港（ブノ  
ン）ノ如シ）ニ於ケル倉庫ニ在ルモノニ限ル（所謂

斯ノ如キ條件ハ現在空懸ノ危險ノ下ニ在リ且適宜ナル倉庫設備ナキ  
佛印ニ於ケル實情ヲ無視シ實行不可能ナル制限ヲ付シテ協定ノ運用  
ヲ阻害セントスルモノト云フ可シ。

資金供與ノ規定タル銀行間第一協定第四條ハ協定中最モ重要ナル規  
定ニシテ之ガ適用ニ付キ協定ニ規定ナキ制限ヲ付スルコトハ協定ノ  
精神ヲ無視スルモノニ外ナラズ當方トシテハ輸出資金ニ就テハ貿易  
協定ニ定ムル品目並ニ金額ノ範圍内ニ於テ買付前ト雖モ一般協定ニ  
ヨリ無條件資金提供スルコトヲ主張スルモノナリ。（尙將來輸入資

金ニ就テモ必要ナル場合貿易協定ノ範圍内ニテ資金提供スルコト）

Handwritten notes in Japanese, including phrases like "輸入資金" (Import funds) and "輸出資金" (Export funds), with arrows pointing to specific parts of the text.

裏面白紙



行 銀 金 正 道 鐵

但シ技術的ニハ(1)輸出入ニ就キ應答ニ對スル貿易協定ノ範圍内ニ圓  
 爲替豫約ヲ認メ(現在ハ輸入ニ關シ輸入濟商品ニ關スル限り佛側ハ  
 之ヲ認ムルモ直先相場ニ不當ナル差ヲ附シ層ルノミナラズ輸入濟商  
 品ニ限り居リ實効ナキ爲メ本邦側ニテ實施ヲ留保ス)且之ガ爲替集  
 中ヲ認ムルコト但シ商先相場ハハトスルコト(本邦側ノ總歩トシ  
 テハ僅少ナル額ヲ附スルモ差支ナカル可シ)(2)更ニ總歩トシテハ佛  
 印ヨリノ輸出ニ就テハ輸出許可獲得ヲ條件トスルモ差支ナシ。(輸  
 入ニ就イテハ荷物到着)

ニ本邦ヨリノ事業資金爲替許可ノ件

(1)佛側回答ニハ我方ノ許可申請額五百八十萬圓ノ中十一月三日現在  
 ニテ三百八十萬圓許可額トノコトナルガ當方ガ大使府宛十月十三  
 日現在提出セル金額ハ五百五十萬圓ニシテ右ノ内十一月三日現在  
 許可發給サレタモノハ約百六十五萬圓ニ不過先方ノ數字ハ當方ト

一致セズ

一、本年アタリ、多量の輸出を認め、輸入は制限される。輸出は約500万圓、輸入は約300万圓と見られる。これは、貿易協定の範囲内での円貨の需給を調整するための措置である。特に、輸入品の増減は、為替の安定と貿易の発展に大きく影響する。したがって、輸入品の削減と輸出の促進が、現在の貿易政策の中心となっている。

裏面白紙

(2)

一「發額ニ就テ日本附社ガ資金用途ノ説明ヲ提示スルニ於テハ速ニ其要求ニ應スヘキ旨總務ニ對シ訓令セリ」トアルモ事實ハ説明ヲ提示スルモ速ニ許可發給サル、コトナク其審査較嚴ニシテ協力的ノ態度ヲ著シク缺キ其爲メ許可發給著シク遅延シ本邦備活動阻害サル、コト甚シキモアリ。

佛印ニ於ケル我附社ノ活動ハ我万經濟作戰ノ重要部分ヲ占ムルモノニシテ之ヲ平時ニ於ケル觀念ヲ以テ處理スルコトハ到底不可能ナリ。佛印當局ノ態度ハ此戰時非常時局ヲ認識セズ佛印一個ノ利益ニノミ終始スルノ憾アリ、今後ハ佛印備ノ了解ヲ得タル諸事業ニ就テハ個々ノ送金ニ對スル許可ヲ廢シ各事業ニ對シ包括的ニ事業資金限度ヲ定メ其限度内ニ於ケル送金ノ許可ハ全然日本側ニ委任スルコトヲ主張致度（例ヘバ北部佛印木材伐採並ニ製材ニ對シ一年一千萬圓トシ此範圍内ノ各社宛送金ハ本邦當局ノ許可アルモノハ佛印備ハ無條件ニテ許可ヲ出スコト）

裏面白紙



昭和十八年十二月三日

橫濱正金銀行河内支店  
支配人 席

大 使 府  
葦 田 經 濟 部 長 殿

十二月一日附銀行資金交渉ニ關スル當方懸信中(一)事務資金ニ關シ今後  
 六ヶ月分トシテ西貢、河内、海防三店要求額、總額三千百萬圓ノ内藤  
 御達附申上候舊方原案ノ四千萬圓ヨリ減少セルハ主トシテ、三井、三  
 菱、南拓ノ三社夫々二百萬、百萬、五十萬圓各社申出ニヨリ減額セル  
 ト昭和通商分(五百三十八萬圓)ハ總テ無許可ニテ輸出サル、可キ品  
 物買入代金ナルヲ以テ別途ノ交渉ヲ行フ必要アルモト認メ削除セル  
 ニ基クモノニ御座候(軍費ニ含メ要求スルカ或ハ輸出ニ就キ協定以外  
 軍需トシテ別ニ認メシメルカ何レカノ方法ニヨル必要アルベシ)

同封別紙 今後六ヶ月ノ事務資金内譯

裏面白紙

竹 銀 金 正 備 積

今後六ヶ月ノ事業資金

(十二月一日現在)

○林業製材

三三〇〇	千圓台拓 (河内)	申請金額	一八六三
一二五〇	三井 (〃)		
一六〇〇	三菱 (〃)		
五〇〇	安宅 (〃)		五〇〇
一五〇〇	三興 (〃)		一五〇〇
三〇〇〇	三興 (西貢)		三〇〇〇
一五〇〇	安宅 (〃)		一五〇〇
一六五〇	三井 (〃)		一六五〇
小計	一三三〇〇千圓		

許可濟金額

四五〇

八〇〇

裏面白紙

資 金 正 額 積

○造 船		○精 米		○カ ー パ イ ト 工 場 建 設	
一五〇〇	五五〇千圓三井(河内)	六二五〇	三井(西貢)	一〇〇〇千圓三井(河内)	
三〇〇〇	安宅(〃)	二五〇〇	林柏萬(〃)		
七五〇	三井(〃)	小 計	六五〇〇千圓		
	小 計	五八〇〇千圓			
			六二五〇		
			二五〇〇		
					一〇〇〇

裏面白紙



實業正金

○ 鐵業	三九〇〇千圓 四〇〇〇 一〇〇〇〇	台拓 (河内) 三菱 (〃) 南拓 (〃)	一〇五三
○ 農藥	小計 四三〇〇千圓		
○ 製紙工場	九八〇 一二〇	台拓 (河内) 三井 (河内)	六四〇 二〇四
總計	三一〇〇〇千圓	(申請金額一九四五六許可濟金額三四五四)	
內	河内 一五六〇〇 西實 一五四〇〇		

(以上)

Handwritten notes and calculations, including numbers like 901, 275, and 802.

行 驗 金 銀 對 照

○ 驗 三 此 〇 〇 千 圓 合 幣 ( 面 內 )	○ 驗 小 箱 四 三 〇 〇 千 圓	○ 驗 此 八 〇 合 幣 ( 面 內 )	○ 驗 總 計 工 銀 一 二 〇 三 共 ( 面 內 )	○ 驗 內 內 一 正 六 〇 〇 西 貢 一 正 四 〇 〇 三 〇 〇 〇 千 圓 ( 申 請 金 證 一 次 四 天 六 箱 百 兩 金 證 二 次 五 天 )
一 〇 五 三		六 四 〇	二 〇 四	( 銀 正 )

Handwritten calculations:  
 177.164  
 39.656  
 37.508



(横濱正金銀行)セ

昭和十九年一月六日

為替課

崎谷事務官殿

横濱正金銀行 取締役  
總務部長 玉 伊 辰 良

大 蔵 省

外資局長 久 保 文 蔵 殿

拜 啓

日佛印協定交渉ニ關スル件

揭題ノ件ニ關シ、十二月廿八日付外信ニテ申述候通り、輸出前管ニ關シ  
シ弊行現地支店宛

一 實際上富方ノ前管資金ヲ變スル時期ニ付主要商品別ニ詳細電報セヨ

ト聞合申候ニ對シ弊西貢支店ヨリ左ノ如ク入電有之候間不取敢御移牒  
申上候

一 玉蜀黍、コムハ等積後代金支拂ノ了解アリ、前管ヲ要セザル事  
トナリタリ。



- 2、其間ハ牛皮、織、（註「電又不明照」、カホツタヲ主トシ大體  
 代金支拂ヲ要スル一般傾向ニアリ。
- 3、御方邦商直接貸付モ漸増状態ニテ前貸時期區々ナリ。
- 4、尚河内ニ於ケル輸出滞貨ニ對スル融資ハ各/branchesより  
 ラ彼シ印度支那銀行ニ提出ノ上實行セルモノナル處、當店ニハ  
 尚ク一聞日商右/branches 書式印度支那銀行ヨリ回附アリタ  
 ル事情ニテ當店請求分繰延シ居ルモノナリ。

敬具

嶋の金

大日本帝國政府

昭和十九年一月六日

松濱正金銀行頭取 堀  
總務部長 玉 伊 辰 良

大 外務局長 久 保 文 藏

拜 啓

日佛印協定交渉ニ關スル件

前題ノ件ニ關シ、十二月廿八日付弊債ニテ申込候通り、貸出前貸ニ  
關シ拜行現地支店宛

「實際上貴方ノ前貸資金ヲ要スル時期ニ付主要商品別ニ詳細申報セ  
但下開各申候ニ對シ弊西貢支店ヨリ左ノ如ク入庫有之候間不取取候

裏面白紙

# 大日本帝國政府

參議中上候

(四)

「1、玉蜀黍、コムハ給被後代金支拂ノ了解アリ、前貸ヲ受セサル  
引トナリタリ。

2、其他ハ牛皮、糶（註一節文不明確）、カボツクヲ主トシ大給

500ニテ契約スルモ給被不規則ト異手資金退還ノ爲倉庫渡ト

共ニ代金支拂ヲ要スル一殺領同ニアリ。

3、地方邦商直接買付モ漸増状態ニテ前貸時期屆々ナリ。

4、向河内ニ於ケル輸出商貨ニ河スル烟膏ハ各 REVENUE ヨリ

DECLARATION

ヲ致シ印度支那銀行ニ提出ノ上發行セルモノナル

庫、官店ニハ請ク一兩日前右 DECLARATION 書式印度支那銀行ヨ

裏面白紙

大日本帝國政府

リ回附アリタル事情ニテ當店請求分進姓シ居ルモノナリ。

(四)

敬 具

裏面白紙

大日本帝國政府

南經第三三號

昭和十九年一月八日

大藏省外資局

伊原 總務課長 殿

大東亞省南方課務局

石田 課長

日華合辦銀行設立計畫ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通り在「西貢」芳澤大使宛電報致シ候ニ付右  
寫及御送付候也

裏面白紙

(一)

75

# 大日本帝國政府

西木大東亞大臣發在西亞芳澤大使宛電報稿

一月六日

日華合辦銀行ニ關スル件

本件銀行ニ對シ如何ナル程度ノ效果ヲ期待シ得ルヤ甚々疑問ニシテ  
又現在ノ日印關係ニ鑑ミ添削力容易ニ同意スヘシトハ認メラレス  
徒ニ先方ヲ刺戟スルコトハ今後ノ我方ノ軍費其他ノ資金交渉ニ惡影  
響ヲモ豫想セラシムル虞無キ事ヲ明瞭及資金交渉解決セハ銀行設立ノ所  
期スル處ハ充足セラシムルヘキヲ以テ此際本件ハ暫ク延擱シ適當ノ時機  
ヲ俟ツコトト致度

尤モ貴方ニ於テ是非共實現ヲ希冀スル專情アラハ石學情及設立後ノ  
見遠、預金吸收見込等詳細御回報相成度

本件陸海軍ト協同濟

裏面白紙

昭和十八年十二月三十日

大藏省  
外資局長 久保 文 藏 殿

横濱正金銀行 頭取席  
總務部次長 玉 辰 良

解 辰 良

并 啓

御印 輸出滞貨ニ對スル融資ノ件

豫而種々御高配賜届候物速ノ件十二月二十八日附ヲ以テ弊河内支

店ヨリ融資實行ノ趣左ノ如ク入電有之候

「輸出滞貨ニ對スル融資ノ件

支那向商品ト在山元(石?)ヲ除キ 廉ハ栽培地ニアルモノ

ヲ含ミ約三五〇萬比弗本日實行、右ヲ以テ再割決済セリ。

尙右融資ハコンマーションナルハG動定一ベノ業中ノ形式ヲ以テ行

支那向商品  
山元(石?)  
廉ハ栽培地ニアルモノ

① 右の如く、物産令の施行を以て、  
G動定一ベノ業中ノ形式ヲ以テ行

内記  
利付のハ、  
ライマ  
ヤ

ヒタリ。」

右資金調達、桑中形式ハ現下ノ協定交渉ニモ關係有之ニ付折返シ  
左ノ如ク漢方ヨリ宛取四頁、河内南文店宛打電致置候間此段御了  
承被下度候

一 瀧田海買總資付形桑中ニテ行ヒタル由、關係何物ハ燕爲替ニテ  
瀧田セラル、モノト了解ス

此種燕爲替被充方各誌セルモノトセバ弊電一號ノ例十二月十日  
前弊信へ井上銀行一証ノ(二)ノ趣旨ニ合致スルヲ以テカホ一先年  
ノ米交渉ノ際既ニ了承シ居ル處ナレドモ協定交渉其他將來ニ且  
リ一頁玉張シ

(1) 何物瀧田ノ赤字形取組再桑中

(2) 斷ニ重資

(3) 手数料二重拂





トナラザル留置取戻度。

敬具

裏面白紙

事務官



附印ニ於ケル銀貨金銀貨金銀貨ニ關スル十二月六日  
附印ニ關シテ答文要譯(昭和十八年一月一七號)ニ

仍印銀貨ハ在佛印日本國駐ノ活動ニ必要ナル五百八十萬一ピアスト  
ル一即チ右種駐ノ要求極額ヲ特別關ヲ對價トシテ日本國ニ提供方印  
度支銀行ニ許司セルヲ以テ佛國當局トシテハ日本國要求ニ對シ  
足ナル國券ヲ與ヘタルモノト思料數額十月二十三日現在ニ於テ右總  
額中三百八十萬圓即チ要求額ノ約三分ノ二ニ相當スル一ピアストル  
實ハ既ニ日本國駐ニ對シ許與濟ニシテ殘額二百萬圓極額一ピアスト  
ル一實ニ關シテ理由ノ說明アルニ於テハ日本國駐ニ關係スベキ旨  
印支銀行ニ指令濟ニ候

若シ十一月十七日附日本大使口上書方簡記金額以外ニ一ピアスト  
ル一貨ノ提供ヲ要求セラルル極額ナルニ於テハ在佛印日本軍ノ維持  
費トシテ最近日本國要求ニ兩キ許與セル極額買四千萬圓極額一ビ  
アストル一貨ノ一部分ハ前記五百八十萬一ピアストル一以外ニ在佛

裏面白紙

印日本國社ノ爲替需費ヲ充足スルタノ利用シ得ベシトノ印象ヲ「ド  
ク」ニ經營ニ於テ有シ居ル旨當録スルノ要アリト思料致シ候

此ノ如クナルチ以テ日本國社ニハ充足セラレベキノミナラズ、在佛  
印指直正命銀行ハ新舊資命ヲモ備候シ得以テ日本國社トノ取引ニ  
對候シ得ル點ト被存候

又佛國外務省ハ一九四三年一月二十日附交換公文ニ關スル了解事項  
第五號ニ於テ「貿易外ノ支拂ニ關シテハ本日附交換公文第三號ハ現  
實ノ必要ヲ超エ無制限ニ「ピアストル」實ヲ提供スルノ義務ヲ印度  
支那銀行ニ負ハシムル旨」ト明記シアルヲ問題スルノ點ア  
リト思料致シ候

佛國國ハ前記諸事項、附記兩千萬「ピアストル」提供ノ義務性及其一  
九四三年一月二十日附協定ノ附屬ヲ考慮シ「ドク」ニ經營ニ對シ實  
易外需費ニ充當セラルベキ「ピアストル」實提供ノ要求ヲ可及的應  
ニ經營者側置スルニ必要ナル無限ヲ附與致スベク候



本電ニ隨スル情概

（外、編、明一八一三、一七）

本電ニ隨シテハ十五日大東亞南洋事務局長於テ電報ヲ行ヒ  
タル結果ハ大東亞南洋事務局長、外務省臨時事務局長、大東亞南洋事務局長  
左ノ決意ヲ見タリ

一、ウイシー政府ニ對シ本電文ノ趣旨ニ對シテ、  
ト

二、近クウイシーニ於テ行ハルベキ佛印電報交換ト聯絡シテ原明電ニ  
付テ佛蘭ノ態度ヲ察奉同ニ取替ヒシムル事ヲ申入レテ爲スベキ旨駐  
佛大使館ニ訓令スルコト



裏面白紙

(横濱正金銀行)

昭和十八年十二月九日



横濱正金銀行頭取席  
總務部次長 玉 伊 辰 良

大藏省外資局  
爲替課長 東 條 猛 猪 殿

拜 啓

佛印協定交渉ニ關スル弊河内支店宛  
指令ノ件

過日來種々御配慮賜居候弊行對印度支那銀行間協定交渉ノ件御來示ノ  
方針ニ基キ弊河内支店宛左ノ如ク交渉開始方指令仕候間不取敢御報告  
申上候  
敬 具

一 奉電概略

協定交渉ノ件、關係當局ノ了解ヲ得タルニ付左ノ方針ニ依リ即時交

涉開始セラレ度。經過逐次報告相成度。

一、第二協定廢棄、第一協定延期、米代金ハ甲勘定ニテ決済

二、第一協定第六條ニ輸出前貸ヲ含ム旨ヲ追加ス

三、右ニ伴フ處置ヲ次ノ如クス

(1) 米資金ハ從來通り、無爲替取扱、集中無關係トス、佛印側手數  
料要求セバ集中並1/4%許容

(2) 米以外前貸ハ資金調達ヲ圓電信爲替トシ、之ヲ集中ス、當行ハ  
對顧客豫約締結(輸出爲替ニヨル右實行ハ集中セザルモノトス)

(3) 前貸ヲ伴ハサル輸出爲替集中措置從來通り

四、前記三ノ(2)ハ爲替二重集中ニヨル手數料二重拂ヲ回避セントスル  
モノニシテ若シ unworkable ナラバ米爲替同様ノ取扱其他適宜ノ方  
法採ラレ度

五、尙貴電二六號(註)趣旨甚ク結構ナルニ付前記二ノ交渉ニ之ヲ採  
り入レラレ度、輸入資金ニ就テモ必要ナラバ字句訂正差支無之、

(横濱正金銀行)

但シ貴電未段直先輔ハ理論上根據ナキノミナラス、圖先安印象ヲ  
與ヘ面白カラズ、集中手紙料文拂ヲ以テ充分ト思ハルルモ、交渉  
上更ニ利益ヲ與フル要アラバ他ノ方法考慮ノコトト致度

六、協定案文左ノ如シ

印度支那銀行、横濱正金銀行間第四協定(案)

印度支那銀行及横濱正金銀行ハ昭和十六年七月四日即一九四一年七  
月四日東京ニ於テ兩行間ニ調印セラレタル印度支那銀行、横濱正金  
銀行間第一協定(以下單ニ第一協定ト稱ス)ノ期限延長及同日調印  
セラレタル印度支那銀行、横濱正金銀行間第二協定失効ニ伴ヒ第一  
協定條項改訂ニ關シ左ノ如ク追加協定シ、之ヲ印度支那銀行、横濱  
正金銀行間第四協定ト稱ス

(第一條) 第一協定序文但書ヲ削除ス

(第二條) 第一協定第五條第一項ノ(一)但書ヲ削除ス

(第三條) 第一協定第六條ヲ左ノ如ク改ム



(横濱正金銀行)

一 附行一般勘定ハ左記ニシテ使用シ得

(一) 日本國印度支那間貿易ニ關スル支拂、但シ輸出貨物買付ノ爲メ支拂ヲ含ム

(二) 右ニ關スル運賃保險料及諸掛ノ支拂

(第四條) 第一協定第十四條ヲ左ノ如ク改ム

「本協定ハ昭和十六年五月六日即チ一九四一年五月六日調印セラレタル「日本國印度支那間關稅貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル日佛協定」カ効力ヲ發生スルト同時ニ實施サレ、右協定ト同一期間効力ヲ有スルモノトス」

註 (十二月八日付弊信「弊行佛印各店資金交渉ノ件」ニテ御

移藤濟)



6.8 18  
 6.8 18  
 6.8 18

(25/18)

甲種口座  
 (別紙)

(4/19)

17/17

現在日佛印間ニ懸案トナリ居ル事項  
 一、日佛印銀行間協定改訂ノ件  
 二、正金銀行ノピアスター資金調達ノ件(別紙)ノ外左ノ通

外一八一三七

裏面白紙

一、本邦制ヨリ要望セル事項

本邦制ヨリ日本向送金方法ノ件

節ヨリ日本向送金方法ニ付テハ

(一) 一、直接送金（正金銀行經由）

(二) 郵印經由送金（印度支那銀行經由）

ノ二方法アルモ（一）ニ付テハ本邦ハ爲替許可ヲ出サズ、現在主ト

シテ（二）ノ方法ニ依ル送金行ハレ居ル處（二）ノ方法ハ

(イ) 正金銀行ノ法資金取替ノ途ナキコト

(ロ) 正金銀行ノ業務範圍制限ナルコト

(ハ) 本邦國ガ特別備安金ヲ使用スルコト（註）

ノ諸點ヨリモテ不利益ナルヲ以テ本邦ハ（一）ノ直接送金ヲ要望シ  
アリ

右本邦側要望ニ對シ佛國側ハ現在日佛間決済協定ノナキ以上許可  
ト否トハ佛國ノ自由ナリトシ、交渉困難ナルモ最近許可セラレタ



ルモノ若干アリ

（国防獻金、家族遺金、眞珠代金等）

（国防獻金、家族遺金、眞珠代金等）

（国防獻金、家族遺金、眞珠代金等）

（国防獻金、家族遺金、眞珠代金等）

仙在のたう、さく

イ、ク、カ

特別内取返すつり

ハ、イ

ハ、イ

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

（国防）

三 佛印側ノ妥ヨセル事項

〔本邦及英印ノ為替取引ノ件

印度支那銀行ハ本邦ニ支店ヲ有スルヲ以テ本邦對英印ノ為替取引ヲ爲シ得ル様要望シアリ  
「レパンパー」レドゥルもニ云フ事ナリ

(註) 右ニ對シテハ他ノ諸懸案ヘピアスター資金調達、佛本國ヨリ日本向直接送金ノ件) 解決ヲ俟ツテ為替取引開始ヲ認ムル極方針ヲ決定シアリ

〔本邦對支那間ノ為替取引ノ件

佛側ハ支那ニ支店ヲ有スルヲ以テ支那ト本邦間ノ為替取引ヲ佛側銀行ニモ認ムル様要望シアリ

(註) 現在支那ニ支店ヲ有スル佛側銀行ハ印度支那銀行ノ外、中法實業銀行アリ

右ニ對シテハグイシーニ於ケル交渉中十一月三日附公文回答附圖ニ於テ佛側ニ於テハ



(イ) 在支加佛國領事執行ヲシテ右案執行内ニ特別勸定ヲ附設セシムル  
事  
又ハ

(ロ) 特別勸定ヲ引出スル境員賃幣勸定ヲ改定セシノ右(イ)及(ロ)ノ何レ  
カ~~ヲ~~評サレル場合其ノ勸定ハ日本側ニ對スル用途ノ説明ヲ~~換~~テ  
ノミ之ヲ使用セシムルコトト~~致~~度~~度~~日本政府ニ於テ右案實現ノ爲  
正金執行ガ便宜ヲ求メ方命令アリ度旨附言シ居レリ  
右佛側提案ハ佛國銀行ノ業務ヲ積極的ニ擴充シ度意圖ナル處之  
ニ對シテハ申出ノ内容具體的ニ不明ナルヲ以テ佛印當局ヨリ具  
體案ノ提示ヲ俟ツテ折衝スルコトトシ、在ウイシ一大使宛出來  
秘ル限リ好意的考慮ヲ拂フベキ旨說明シ處ク豫訓電シアリ

○ 附<sup>キ</sup>いたす  
○ 支加佛領事館  
○ 支加佛領事館  
○ 支加佛領事館

(三) 東京市物買債整理ノ件

本邦側ハ法或金方元分ナラザルヲ以テ物買債ヲ支拂フコトハ出来ズ  
之ニ對シ佛國ハ本邦、對佛債權ヲ元償返済スル豫措直スベキ旨申シ  
ルモ、本邦ノ對佛債權中ニハ現在ウイシ一政權下ニナキ地域（シリ  
ヤ、モロツコ等）ニ對スル債權アリ且佛國ノ債權モアリ、如何ナル  
債權ニ付テ物買債支拂資金ニ充當スルヤノ點ニ付日佛間ニ意見一致  
ヲ見ス面々ノ債權ニ付交渉ヲ要スルコトナリ察レリ

(註) 正金銀行ノピアスタ―資金補充ノ爲在巴里資金ニ〇〇〇萬  
法ノ印印同同金ノ件ハ、右東京市物買債支拂資金トシテ必妥ノ際ハ  
返還スベキ債權ニテ解決セリ





外、爲、一八、二、三、六

正金銀行ノピアスター資金問題

一 金銀行ノピアスター資金問題ノ概要左ノ如シ

一 正金銀行ハ第一協定(一般勘定)又ハ第三協定(特別勘定)ニ

基キピアスターヲ要求スルモ印度支那銀行ハ圓滑ニピアスター資

金ヲ供給セサルコト(一八、二、三)〇政府間交換公文第二屆ニ依リ佛

印ハ特別圓ヲ濫用トシテピアスターヲ圓滑ニ供給スベキ義務アリ)

二 右ニ依リ正金銀行ノピアスター資金ハ逼迫シ本邦側專業資金ノ調達

ハ困難トナリ物資運付モ資金ノ枯ヨリ不圓滑トナルコト

三 印度支那銀行ノカカル態度ノ理由ハ佛印側ハインフレヲ防止スル

ノ爲アリ、ピアスター資金ヲ無限ニ供給スルモノニ非ズ用途内容

ヲ審査ノ上供給スルモノナリト云フニアルコト(一八、二、三)〇政府

間交換公文附屬了解事項第五項)

四 本邦側專賣資金調達ハ

(イ) 本邦ヨリ調達スル場合

(ロ) 為三協定ニヨリ調達セルピアスターニテ正金が貸付チナス場合アルモ

(ハ) ハ佛印ノ為替許可ノ不圓滑

(ニ) ハ印度支那銀行ノピアスター資金供給不圓滑ニ依リ困難ヲ來シ居レルコト

註(1) 正金ハ在佛印資金調達ニ際シ長期專賣資金ハ本邦ヨリノ送金ニ

ヨリ調達スル機ニ臨商社ニ懇請セルモ、尙佛印側ノ為替許可不

圓滑ニヨリ困難ヲ來シ居リタル處、本邦側政府一ニ三付回答ニ

ヨレバ、佛印側ノ對價ピアスター中一部三八〇萬圓ノ對價ビ

ピアスター提供ニ付一、二ニ三許可降ニシテ残り二〇〇萬圓ニ付テ

モ、資金供給說明ニ示般課力ニ要求ニ應ズベキ旨「ドク」ニ





河シ訓令済ニシテ、爲替許可ノ不備滑ノ著ハ差廻リ右訓令ニ依  
リ一應解決スベキモ尙將來ノ問題及埒地匭實際許可狀況ニ付  
視スルノ要アリ

裏面白紙



(2) 正命ガピアスタ一資金ヲ調達シ之ヲ現地ニ於テ事業會社ニ貸付ケル

場合ニ付テハ尙解決セズ

現在 緊急措置トシテ手形再割引 (利率五分) ノ方法ニ依リ居レルモ  
日佛印間決裁ノ様式ニ關スル交は公文ハ正命ニ對シピアスタ一が  
滑ニ供給スルノ義務ヲ規定シ居ルヲ以テ當方トシテハ更ニ強ク要求  
スベキコト

正命銀行ノピアスタ一資金逼迫ハ佛印ヨリノ輸入物資ノ輸送困難ニ依  
リ買付ニ難通セル資金ノ返済ガ遅延スルコトニアリ

即チ佛印側ハ輸出許可ヲ與フルモ現貨ニ輸送セザル限り買付資金ヲ提  
供セザルコトニ依ルコト

輸出手形ガ組メザル限り爲替集中出来ズ從ツテピアスタ一資金調達  
出来ザルコトナル

十一月三日公文ニヨル佛政府回答ニ依レバ在佛印商社ガ物資ヲ買付ケ  
輸出許可ヲ取付ケタルトキハ印度支那銀行ハ正命銀行ニ對シ公定相場

339 339 201.11.18 2  
de 201.11.18 2 (10.18)  
i 201.11.18 2

Give and Take

ニ依リピアスタトヲ提供スベシト訓令セリ

右訓令 依リ本訓令ハ一步前進セルモ尙現地ノ運用状況ヲ注意スル

ノ要アルベク更ニ買付資金ノ提供ニ付政府間交換公文ノ精神ニ依リ

同滑ニ爲スベキコトヲ要求スルノ要アルコト

↓ 本口・行目・中印の各口を注意スル

(註)

尙輸出許可アリタル場合ト云フモ現貨ノ問題トシテハ輸出許可ノ時

期ニ關聯シ山元ニテ許可スルカ積出地迄輸送後ニ於テ許可スルカ等

ニ依リ資金調達時期ニ差ヲ生ズル點現地ニ於テ交渉中ナリ

商品別ニ日平均ニシテ

了  
了  
了

日平均

特別

了即ち了

公的



外爲一八一三 四

(一) 輸出前貸資金調達ノ件

輸出前貸資金ヲ一般勘定ニ依リ調達スルコトヲ目標トシ、權力交渉スルモ交渉ノ情況ニ應ジ段階的ニ左記辦法ヲ考慮スルノ要アルコト

第一案

正金銀行第四協定案並、第一協定<sup>第六條</sup>改正ニ依リ輸出貨物買付ノ爲ノ支拂モ一般勘定ニ於テ調達スルコトヲ條文面ニ規定スルコト

第二案

第一案與雖ナル場合既得權益トシテ米ノ買付ノ爲ノ支拂ハ一般勘定ニ於テ調達スルコトヲ條文面ニ規定スルコト  
此ノ場合米以外ノ輸出貨物買付ノ爲ノ支拂資金調達ハ一般勘定ニ於テ爲シ得ルコトヲ附屬解釋事項トシテ規定スルコト

第三案

第二案困難ナル場合

條文面ニ規定セズ附屬瞭解事項トシテ米ノ買付ノ爲メ支拂及米以外ノ  
輸出貨物買付ノ爲メ支拂ノ爲メ一般勘定ニ於テ資金ヲ調達シ得ルコトヲ  
規定スルコト

第四案

第三案困難ナル場合

附屬瞭解事項トシテ米ノ買付ノ爲メ支拂ノ爲メ一般勘定ニ於テ資金ヲ調  
達シ得ルコトヲ規定シ米以外輸出貨物買付ノ爲メ支拂資金調達ハ別途  
交渉シ印度支那銀行ガ圓滑ニ資金ヲ供給スル程度スルコト

（一）一般勸定利率ノ件

從來本勸定（乙勸定）ニ於テハ年三・五七五分ノ利息ヲ附シ居リタル  
處、米代金ノ決済七一一般勸定（甲勸定）ニ於テ行フコトトナリタル  
合一般勸定ノ利息ハ現在通知口年三・二五分、一般口年一分ナルヲ以  
テ、印度支那銀行ヨリ一般勸定利息ニ付テ何等カノ要求アルヤモ知レ  
ザルコト

石ニ請シテハ各地域ノ特別圓勸定ノ利率ヲモ考慮シ、他ノ勸定交渉ト  
モ<sup>改</sup>合<sup>改</sup>と適當對處スルノ要アルコト

（二）手数料ノ問題

銀行間實業諸國連ヲ一般勸定ニ依ルコトニナリタル聯合銀行ノ爲め  
中トノ關係ニ於テ圓ノ二重費手数料三重拂ノ問題ヲ生ズベキ處、之ニ  
對シテハ爲刀組ノ二重費手数料三重拂ヲ防止スル<sup>改</sup>技術的措置ヲ考慮  
シ<sup>改</sup>銀行間ニ交渉スルノ要アルコト  
本件ハ現地主銀行ノ交渉ニ一應<sup>改</sup>之ヲモテ於ケル實情等モ考慮シ



能ノ無誤解決トモ脱首セ、要スレバ取崩ニ於テ正當取行ナ「バック」  
スルコト

裏面白紙

# 大日本帝國政府

一、現行協定ノ有効期間

日佛印銀行同協定ノ期間満了ニ關スル件

外、為、一八一〇三一

(一) 日本國印度支那同商稅制及、貿易及其ノ決斷ノ様式ニ關スル

日佛協定(附一六 共 六箇印)

本年十二月三十一日満了、自動的更新

(二) 正金及印度支那銀行同第一協定(附一六 共 四箇印)

本年十二月三十一日満了

(三) 貿易ニ關スル決斷ハ一般協定ニ依ル

(四) 正金及印度支那銀行同第二協定(附一六 共 四箇印)

本年十二月三十一日満了

(五) 米代金ニ關スル決斷ハ米協定ニ依ル

(六) 日本國佛印同決裁ノ様式ニ關スル交換公文(附一八 共 二箇

箇印)

失効時期ハ政府協定

裏面白紙



大日本帝國政府

(用) 右 交際公文ニ關スル了解事項(昭一八 三二〇調印)

右 同

(内) 正金及印度支那銀行同第三協定(昭一八 三二〇調印)

公使公文ノ大叙ニ關スル趣有致

(出) 右 第三協定ニ關スル了解事項(昭一八 三二〇調印)

右 同

裏面白紙

# 大日本帝國政府

第一協定及第二協定ノ延長又ハ廢止ニ伴フ事項ノ決定

(一) 第一協定、第二協定廢止ノ場合

(甲) 關稅制度貿易及其ノ決済ノ儀式ニ關スル日佛協定一ハ貿易上ノ決済ハ甲協定ニヨリ米代金ハ乙協定ニヨリ日佛協定セルヲ以テ第一協定廢止ニ伴ヒ政府間協定變更ノ要アルコト

(乙) 一般勸定ハ存續セシムルモ何等不利益ナラズ五百萬圓迄ハ無利息限度ヲ利用シ得ル處之ヲ廢止スレバ右無利息限度モ利用シ得ザルコトトナルコト

(丙) 第三協定第四協定(正金ノピアスタ)要求ニヨリ特別國チ對價トシテピアスタ一供給義務一ハ一方的規定ナレバ、印渡支那銀行ノ爲ニ現在第一協定第三條ト同一趣旨ノ規定ヲ新ニ置ク要アルト共ニ爲替相續等ニ付中改正ヲ加フルノ要アルコト

(二) 米代金ニ付一平償還ノ利ヲ欠フモ現在一般勸定ノ五〇〇萬圓超過額ハ金又ハ金ニ兌換シ得ル外資ヲ以テ決済スルヲ要セズ

裏面白紙

# 大日本帝國政府

特別國ニテ可ナルヲ以テ特ニ第二協定ニ依リ米代金ヲ預置  
 クコトハ利子ノ額(未勘定ハ年 $\frac{5}{8}\%$  特別國勘定ハ一放口年  
 1%、通知口年 $\frac{1}{4}\%$ )ヨリスルモ、特ニ利益ナキコトトナ  
 リ第二協定ヲ存置スルノ意味ナキコト

裏面白紙



# 大日本帝國政府

(一) 第一協定廢止、第二協定存続ノ場合

(1) 右(一)、(4)、(4)

(2) 右(一)、(二)ニヨリ第二協定ノ延設スル期間ナキコト

(3) 政府協定ニ於テ米協定ニ據込ムハ其比率ノ決定、及從來一般

協定ニ據込ミタルヲ特別國協定ニ據込ムコトニ訂正ノ要アル

コト

(二) 第一、第二協定延長ノ場合

政府協定ニ於テ米代金中一般協定ニ據込ム分ト米協定ニ據込ム

分トノ比率ヲ決定スルヲ要スルコト

(三) 第一協定延長第二協定廢止ノ場合

(1) 右(一)

(2) 第二協定廢止ニ付テハ右(一)、(二)ニヨリ支障ナキコト

裏面白紙

# 大日本帝國政府

日佛印緬緬行協定ニ關スル件

一六二六一

正金銀行券（第四協定）ニ關シ問題トナルベキ點在ノ通  
 一 政府側協定トノ條目

一 一六五六號印ノ日佛協定ハ

（一）二十二條ニ於テ甲乙丙協定ヲ予定シ居レル所第四協定ニ於テ  
 ハ乙協定ヲ除外スルコトトナルモノヨリ點ハ一九四四年以後ニ  
 於テハ乙協定ヘノ撤込ヲ協定シアラザルヲ以テ特ニ政府側協定  
 ヲ改訂スルノ要ナカラスキコト

（二）二十三條ニ於イテ、輸出側實資金ヘノ充當ヲ規定セス、第四協  
 定乘第三條但シ番ハ「輸出側實資金付ノ充當ヲ支拂ヘ」ノ充當ヲ予  
 定スルヲ以テ、此ノ點日佛協定ノ條文ヲ改正スルノ要アリヤノ  
 問題アルコト

三 輸出側實資金調達ノ問題

裏面白紙

# 大日本帝國政府

輸出前貨査察ヲ一般勸定ニヨリ調達スルコトヲ漏泄ノ面ニ被スコトハ右一ノ限、取前同勸定トノ關係アリ、該文ヲ改正セス外交交渉等ニ依リ漏泄ニ於テ實ヲトリ得ザルヤテ非フルノ要アルベキコト

## 三國ノ二重税、手紙料ノ二重課防止

輸出前貨査察ヲ勸定ニ依リ調達スルコトトヒルトキ佛印ノ爲密換中トノ漏泄ニ於テ輸出前貨方輸出爲替ニ傳シタル勸告ハ國ノ二重課下ナルヲ以テ、之ヲ防止スル方法トシテ左ノ如キ方法考慮セラレルコト

## （前） 貨 査 對 照 簿 預 約 （ 集 中 ）

輸出局發 右予約ノ實行

右ノ對照前貨査察中スルコトハ現在佛印ガ予約爲替ノ集中ヲ認メ、所ラザル漏泄沙テ發スルコトトナルコト

## （后） 貨 査 集 中

裏面白紙

# 大日本帝國政府

新島鐵道出——兼中セズ

右ノ場合現在ノ米ノ買入、輸出ノ場合手形ヲ組マズ無爲好トス  
レバ兼中ノ困難ヲ生ゼズ一應問題ナキコト

(四) 割 貸 —— 兼中

輸出爲替 —— 兼中

右ノ場合國ノ二重課税、手形割手防グタメ、輸出爲替ヲ兼  
中スルト半割貸ノ隨テ割手割手賣戻シ且手形割手ハ兼手割手トスル  
カ、ハ内閣定員制ニ依リ調整スルカノ方法ヲ圖スルノ要アルコ  
ト

四米關係實情概観

正金銀行要約リ現在ノ米々無爲好取扱トスルモ兼中手形割手並ノ手  
形割手ハ止ムヲ得ザルコト

現在綜合復算率 九七・八二

中割定一本 九七・六〇

裏面白紙

大日本帝國政府

(桑中手紙料八圓分、一紙) (註)

五

三

裏面白紙



事務官

昭和十八年十一月廿七日

横濱正金銀行頭取  
藤部次長 玉井

殿

大蔵省外資局  
總務課長 伊原 隆 殿

拝啓

辨行佛印各店發金交渉ノ件

先般來クイシ一大使館經由交渉御座相續然前佛印可論問題ニ  
關シ爾後ノ辨行河内支店計佛印發行間接備狀況左ノ通リ河内支店  
ニ報告済之條閣下御参考ニ御報告申上候

敬 具

裏面白紙

左 記

十一月十九日 河内支店發電

「ヴィンイ湖令ニ馬ヲ不取收別電ハ註(一)ノ總出補資ニ對シ第一協

定第四條ニ據ル三國○處比弗融資方請求セリ、カネノノ願度ハ從

來ヨリ幾分緩和サレ *Khawar Post* 並ビニ國家官庫ヲモ認ムル口吻ナ

⑨

ルガ依然前物ガチエツクレ得ベキ狀態ニ在ルコトヲ主張シ山元ニ

在ルモノニ對シテハ讓ジ難シト言ヒ若レリ、斯クテハ現據下ニ

在ル北郡印度支那ニ於テハ國債ナル運用期待スルヲ得ズ、融資金

額ニ付テハ當店提出リストナ機對ノ上以テアル幣ニ付當店トシテ

ハ第一協定第四條ハ實付前融資ニ就テモ適用スベキモノナルコト

大體譲ヲ捕ジ主張ノ心儀ナリ。

向西貢分屯當店同様ノ申入ノ管」

(註)十一月十九日設 河内支店別室

河内支店別室ハ其ノ現況見納入及内経田積出ニ據リ減少、現在貯  
可掘持分約五三萬比幣、廢棄持分確定ノモノ二九〇萬比幣  
其ツテ既母別引分決定セバ引約九三萬比幣トナル、但シ該  
額ノ内抽出未定ノモノ約一千萬有之、之ニ依リ約一〇〇萬比  
幣追加スベシ。

河内支店別室トシテ現在當店為許可申請分家宅一五〇萬比、三  
萬一〇〇萬比、後指一二〇萬比、附一三一〇萬比ニシテ安宅  
三河分次同、可ニハ夫々為一回可分支配明細ヲ要求セラレ  
府ル處製材用トツツク其製材材料悉テ商ニテ發付セザレバ  
入手シ得ず、故ニ管轄司ノ明細見出セバ商人ノ安商人ガ  
控訴ナル、然レアルキノ如キアリ、後指ガハ大面分乗繼有代  
金ナルガ出元ニ寄附セラレ給ル為ノ許可取消サレズ現在許可



見込アルモノハ約七〇萬圓ニ達キス。昭和通関分ハ始下金部

は借債代金ナル為ノ許可取付由タリナリ。Cash in hand

チエツクハ額ノテ被致ニシテ支拂漸分ニ別シテハ假取書ヲ添

付セシメ認テ買入ヲケエツクシテ別ル別ナリ」

(右別通ハ前方ヨリ別々ノ付通別買付金トシテ別通サ又ケ荷

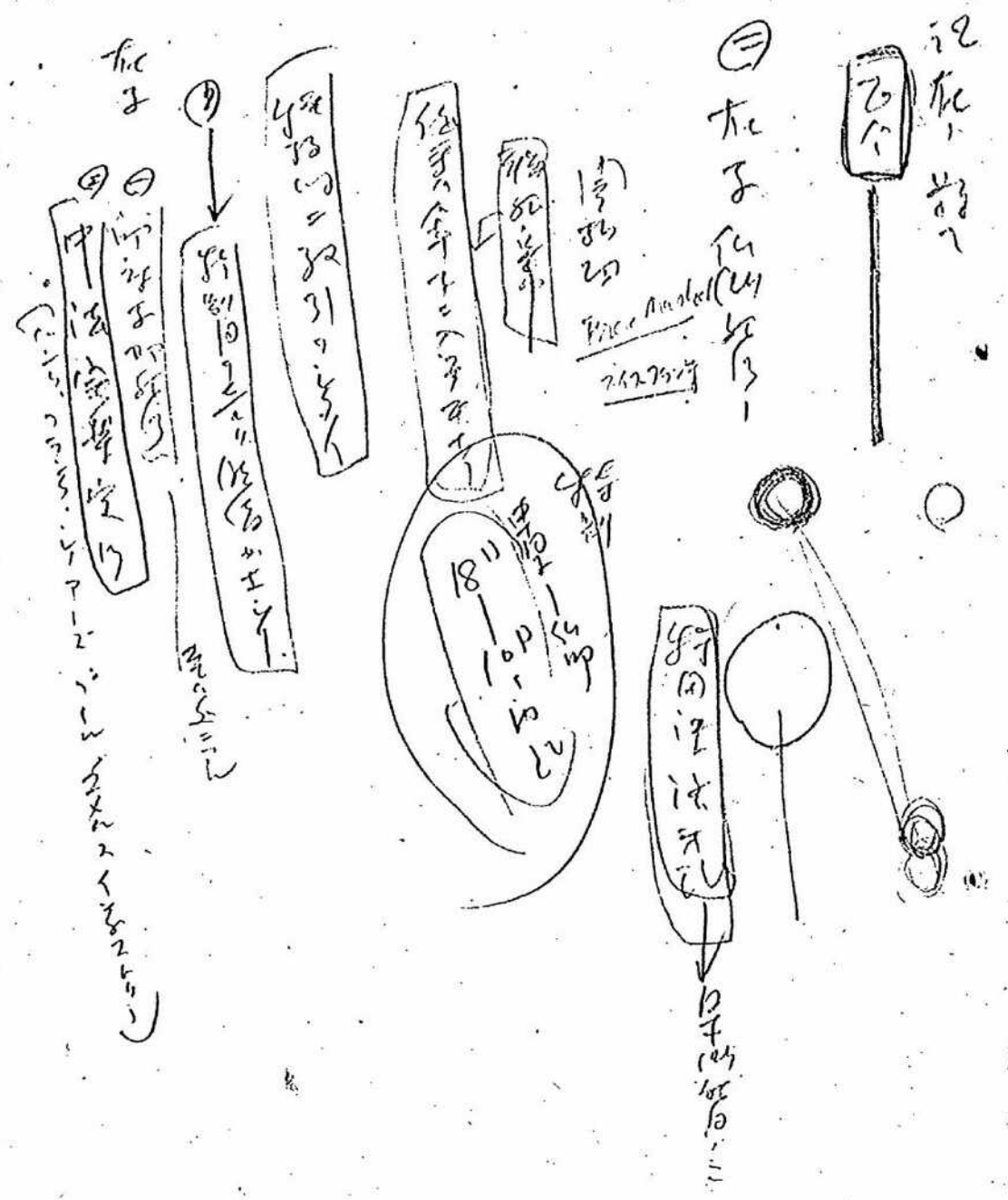
ベキ見込額、〇〇〇〇〇〇金トシテ金ヨリ返念セルモノニ別スル為

遊在司ノ買取額別次流ニ別スル同義ナリ)

以上







大日本帝國政府

15000  
69P  
1475

不  
本  
大  
現  
是  
所

大  
日  
甲

神皇正統記

水ノ巻

神皇正統記 水ノ巻 第一ノ章 神代卷ノ末ノ事

神皇正統記 水ノ巻 第二ノ章 神代卷ノ末ノ事

神皇正統記 水ノ巻 第三ノ章 神代卷ノ末ノ事

神皇正統記 水ノ巻 第四ノ章 神代卷ノ末ノ事



ル事務

イ 在外不動産等ノ取得

外國ニ在ル資金ノ貸付、在外財産ノ取得又ハ在內財産所得ノ

在外財産處分

東京、滿洲國又ハ中華民國へノ貨物ノ輸入又ハ資金移動ノ

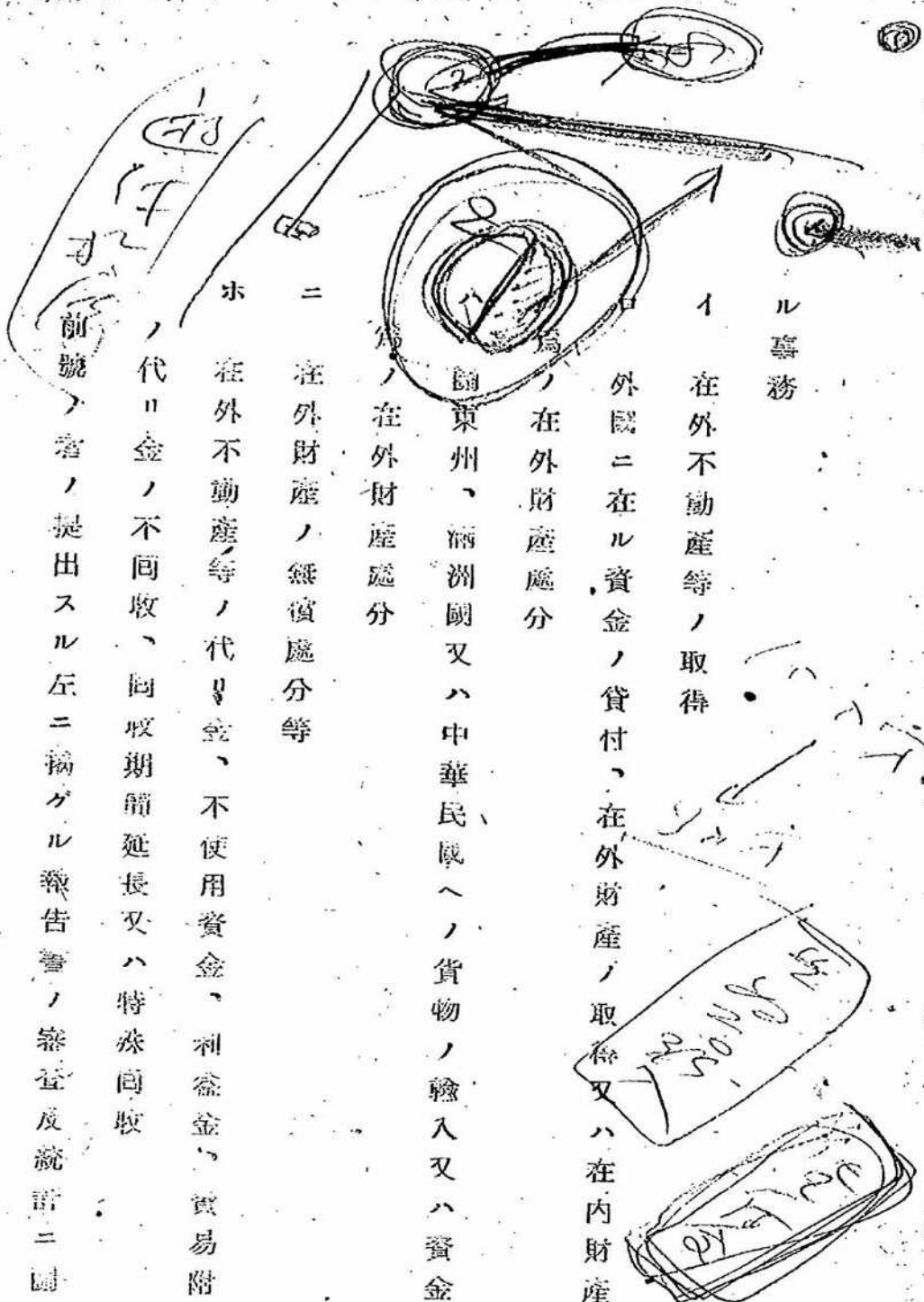
在外財産處分

ニ 在外財産ノ無償處分等

在外不動産等ノ代り金、不使用資金、利益金、貿易附帶債權

、代り金ノ不回收、回收期間延長又ハ特殊回收

前號ノ者ノ提出スル左ニ稱グル報告書ノ審査及統計ニ關スル事



大日本帝國政府

此印本即前次推出一覽仔不十日私為者平新  
正金十枚高票一上印本及即發行一紙一角引  
引為二枚法

角引引本五分

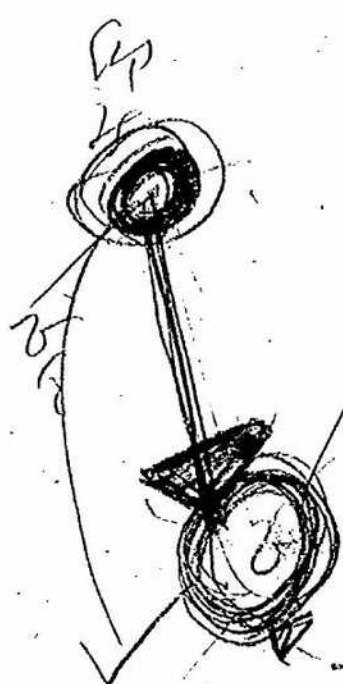
此印本即前一五枚百方比那

此印本即前一五枚百方比那

此印本即前一五枚百方比那

(國定規格B5 210x257)

大日本帝國政府

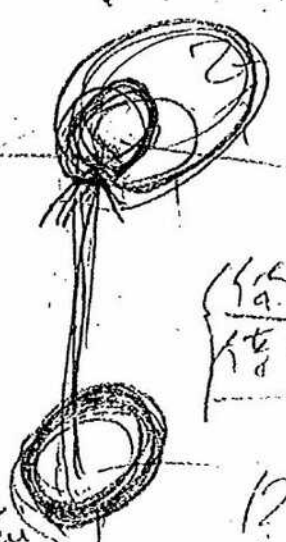


Handwritten notes in the center:   
 1. A circled word: Dado   
 2. A circled word: Dado   
 3. A circled word: De p... / cre...   
 4. A circled word: cre...

Handwritten notes in the center:   
 1. 38 / 37 / 1   
 2. 17 / 13   
 3. 3 / 1

Handwritten notes at the bottom left:   
 1. cre...   
 2. de...

Handwritten notes at the bottom center:   
 1. De 12...



Ind. ch.

Handwritten notes on the right:   
 1. 12 / 11   
 2. 12

Handwritten notes at the bottom right:   
 1. 12 / 11

命子即此也 正元一也  
紀略一也  
八五一月一 河上 (3781 年)

冷年  
八月九日  
日下  
紀略一也  
紀略一也  
紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

紀略一也

大日本帝國政府

一、本邦の歴史を記す

(國定規格B5一八二×二五七托)

① 仙... (circled)  
仙... (circled)  
仙... (circled)  
仙... (circled)

② 仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)

仙... (circled)

仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)  
仙... (circled)

negative

仙... (circled)

仙... (circled)  
仙... (circled)  
仙... (circled)

大日本帝國政府

字

大藏省外資部長久保千藏

大藏省南方事務局長

記

日印銀行の協定ニ関する件

標記、件、關、之、以、合、行、号、初、日、協、定、案、提、出、の、旨、を、知、  
 悉、即、上、記、の、旨、を、照、り、一、定、日、印、銀、行、と、交、渉、せ、ら、れ、  
 上、記、協、定、の、旨、を、貴、局、に、照、會、す、所、望、に、依、り、協、定、の、  
 旨、を、照、會、す、所、望、に、依、り、協、定、の、旨、を、照、會、す、所、望、に、依、り、

(國定規格B5 183x257mm)

①

ラト大いん字に送るやまとい

特用一隊送

ニヒツカケテ

トノ能カ思ハズカハカニ

えん

上品

4月18日の上と大いん

4月24日の上と大いん

4月25日の上と大いん

仙居

2月29日





大日本帝國政府

(日本銀行) (日本銀行)

(100) 10,000 (2)

10,000

(100)

100 10,000 100

Saipon = 100 10,000 @ 99%

10,000 → 100%

↓ 10000 會

Saipon = 100 10,000

100 100

(100)

Docu 10,000 @ 99% 10,000

100 100

善田

100 10,000 100

東京 100 10,000

↓ 100

東京 = 100 10,000

Saipon = 100 10,000

100 10,000 100

10,000

東京 = 100 10,000

Saipon = 100 10,000

↓ 100

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十八年十一月廿五日

讀賣正金銀行頭取席

取締役總務部長 伊 藤 和 雄

大 藏 省  
外 資 局 長 久 保 文 藏 殿

拜 啓

日佛印銀行間協定案文御送付ノ件

印度支那銀行發行間第一協定及第二協定ハ期限本年末ト相成居候處  
適日御來示アリタル御方針ニ基キ

第一協定（貿易）「一般協定」關係）ハ延期

第二協定（「米勸定」關係）ハ失効

ト致シタル由會ニ關滿兩行間ニ協定セラレハキ第四協定案文茲許請  
蒙ノ上御送付申上候間御審議ノ上何分ノ御指示賜度御願申上候

裏面白紙

大日本帝國政府

尙本件案文外務省戰時經濟局長、大東亞省南方事務局長宛各々御達  
付致置候間併て御了承賜度候

敬具

裏面白紙



# 大日本帝國政府

## 印度支那銀行債權正金銀行同協定

印度支那銀行及債權正金銀行ハ昭和十六年七月四日即一九四一年七月四日東京ニ於テ兩行間ニ調印セラレタル印度支那銀行、債權正金銀行間第一協定（以下單ニ第一協定ト稱ス）ノ期限延長及同日調印セラレタル印度支那銀行、債權正金銀行間第二協定失効ニ伴フ第一協定債項改訂ニ補シ左ノ如ク追加協定シ、之ヲ印度支那銀行、債權正金銀行間第四協定ト稱ス

（第一條）第一協定序文但書ヲ削除ス

（第二條）第一協定第五條第一項ノ（一）但書ヲ削除ス

（第三條）第一協定第六條ヲ左ノ如ク改ム

「兩行一般協定ハ左記ニノミ使用シ得

（一）日本國印度支那間貿易ニ關スル支拂、但シ輸出買物

買付ノ爲メ支拂ヲ當ル

*Handwritten notes in Japanese:*  
 第一協定第五條第一項ノ（一）但書ヲ削除ス  
 第一協定第六條ヲ左ノ如ク改ム  
 兩行一般協定ハ左記ニノミ使用シ得  
 日本國印度支那間貿易ニ關スル支拂、但シ輸出買物買付ノ爲メ支拂ヲ當ル

裏面白紙

大日本帝國政府

(第四條) 第一協定第十四條ヲ左ノ如ク改ム

「本協定ハ昭和十六年五月六日即チ一九四一年五月六日  
締結セラレタル「日本國印度支那間通商貿易及其ノ  
濟ノ様式ニ關スル日佛協定」ガ效力ヲ發生スルト同時  
ニ實施サレ、右協定ト同一期間效力ヲ有スルモノトス

右ニ關スル運賃保險料及諸掛ノ支拂



Handwritten signature or initials

裏面白紙



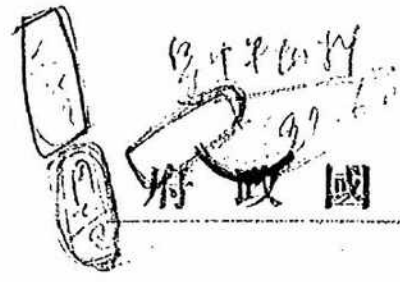
# 大日本帝國政府

## 第四編 附定解法

一、第一條、第二條ハ勅令ニ依リ、從來乙種定額ニヨリ課税セ  
 ラレ居リタル白米賣付資金ト一般勘定額トスル爲、第一編定序  
 文及第五條第一項ニアル白米除外但書ヲ削除スルモ、ナリ。  
 二、第四條ハ第一編定額原本年末トナリ居レルヲ移斯ルモ、ナリ。  
 三、第三條ハ作出ノミナラズ賣付ノ額ヲモ限ラレ居ル白米資金ノ  
 供出ヲ從來通りトシ、併セテ居ルタル爲、將前賣付一般勘定額ノシ  
 ムル爲、第一項ニ新ニ但書ヲ附シ、從來ノ右貿易ニ關スル。トナリ。  
 トナリシハ二項目額ヲ一石ニ限スル。トナリ。

賣付ノ額ヲモ限  
 ラレ居ル  
 白米資金ノ  
 供出ヲ從來通りトシ、併セテ居ルタル爲、將前賣付一般勘定額ノシ  
 ムル爲、第一項ニ新ニ但書ヲ附シ、從來ノ右貿易ニ關スル。トナリ。

裏面白紙



大日本帝國政府

(註)

第三條ニ依リ輸出前貸、新ニ當マシムル事ニ依リ、實際運用ニ際シ傳印高價事申下、關稅ニ於テ、關稅、關中手数料、為替換算率等ニ就キ後多、問題アリ。

我方、前案左、如シ。

(一)米關係ハ從來通り、即チ爲替取扱、關中ニ關係ナキモノトス

但シ現在四五%甲勸定關稅九七〇六〇歳、五五%乙勸定關稅綜

合レイト九七〇八ニ轉トナリ居レルモノガ、第二勸定換數ニ伴

ヒ今後甲勸定一本關五九七〇六〇歳併手数料トナシテ以テ傳印

關稅關稅支拂、已ムヲ得サルモノト認ム。

米以外、前貸ハ、資金調達ノ便宜爲メトシ之ヲ關中、關中

手数料ト支拂ヒ、銀行ハ通關者國爲替換約ノ命詔、前貸方輸出

Handwritten notes and stamps in the left margin, including a circular stamp and various illegible characters.

裏面白紙



# 大日本帝國政府

爲替ニ關シテ時行ハ右銀約ノ發行トシ、關ニ通貨、手致料ニ關  
連シテ如ク。

裏面白紙

頭取席總務部

正金、印原支那銀行間協定ノ延期問題

一、銀行間協定ノ有効期間

（第一協定）

第十四條ニ依レバ、一九四三年十二月三十一日迄有效、但協定満了ノ六月前ニ終了セシムル意圖ヲ表明セザルトキハ一年ツツ延長トアリシ處

第三協定第五條ヲ以テ前項但書ヲ削除 特別内一本決トスルノ旨

（第二協定）

第九條第二項ニ依レバ、一九四三年十二月三十一日迄有效

（第三協定）

第七條ニ依レバ、一月二十日調印ノ「交換公文」ノ失效ニ至ル迄有效

即チ第一、第二協定ハ本年末日ヲ以テ失效スルコト、ナリ、延期交

涉ヲ開始スベキヤ否ヤガ問題トナル。

三 政府間協定ノ有効期間

(1) 第一・第二兩協定ノ基本協定タル一九四一年五月六日ノ「日本國印度支那間關稅制度・貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル日佛協定」ノ有効期間ニ就キテハ、第三十一條ニ本協定ハ「一九四三年十二月三十一日迄有效タルベシ、本協定ハ兩國政府ノ一方ガ本協定満了ノ六月前之ヲ終了セシムルノ意思ヲ他方ニ通告セザル限り暗黙ノ更新ニ依リ一年ツツ延長セラレベシ」トアリ

(2) 一九四三年一月二十日附ノ「交換公文」ノ有効期間ニ就キテハ第七號ニ「本交換公文ノ條項ヲ失効セシムル時期ニ付テハ兩國政府之ヲ協定スベシ」トアリ一應無期限トナツナキル。

三 期間延長ノ問題

銀行間協定第一・第二兩協定ハ本年末ヲ以テ失効スルガ、基本協定

タル政府間協定ハ自動的ニ更新セラレテ居ル。從ツテ銀行間第一、第二兩協定ニ就キテモ期間延長ノ交渉ヲ開始スル必要アルヤニ考ヘラレル。(第一、第二兩協定ニハ自動的更新ノ文言ガナイ爲メ延長ノ交渉成立セザル場合ハ協定ハ失效スル)

(一) 期間ヲ延長スルトシテ問題トナルノハ次ノ諸點デアル。

(1) 第一協定ハ其儘延長スルモ何等差支ガナイガ、第二協定ニ就キテハ第三條第二項ニ規定セラレテキル米勘定ト一般勘定ノ振當率如何ニスルカ、問題トナル。是ニ就キテハ協定面ニアル一九四三年度比率55%ヲ其儘踏襲スルコトガ考ヘラレルガ、兎來此ノ比率ハ政府間ノ取極ヲ協定面ニ記載シタルニ止マル。而シテ政府間ニハ一九四四年以後ニ就イテハ何等了解無キモノト觀ネバナラヌ、從ツテ期間ヲ延長スルニ付キテハ延長期間ニ於ケル比率ヲ政府間ニ協定スルガ順當ノ手順ト考ヘル。

(回)米勘定ヲ廢止シテ一般勘定(第一協定)ノ運用ノミニヨリ貿易上ノ決濟ヲ片付ケルト云フ手ヲアル。政府間協定ハ兩勘定ノ運用ヲ豫定シテキルガ、一九四四年以後ニ於テハ白米輸入資金ノ調達ハ總テ一般勘定ニヨルトスルヲ妨ゲルモノデハナイ。從ツテ第二協定ヲ失効セシメ第一協定ノミヲ更新、白米輸入ハ第一協定ノ運用ニヨルコトニ就キ了解ヲ求メ得ル筈デアル。併シ此ノ場合モ政府間交渉ヲ必要トスル。

(二)期間延長ヲ辭メテ第三協定一本ニスルト云フ方法モ考ヘラレルガ之ニ對シテハ次ノ諸點ガ問題トナル。

(イ)日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル日佛協定一、ハ兩國間貿易上ノ決濟ハ一般勘定ニヨル旨ヲ規定シ且此ノ規定ハ「交換公文」ニ抵觸シテキナイ爲メ、政府間協定ニ根本的變化無キ限リ第一協定ヲ廢止スルコトハ穩當デナイ。

信託金銀行

(回) 我方トシテモ一般勘定ヲ存積スルモ何等不利益無キノミナラズ却ツテ五百萬圓迄ハ無利息限厚ヲ利用出來ル利益ガアル。

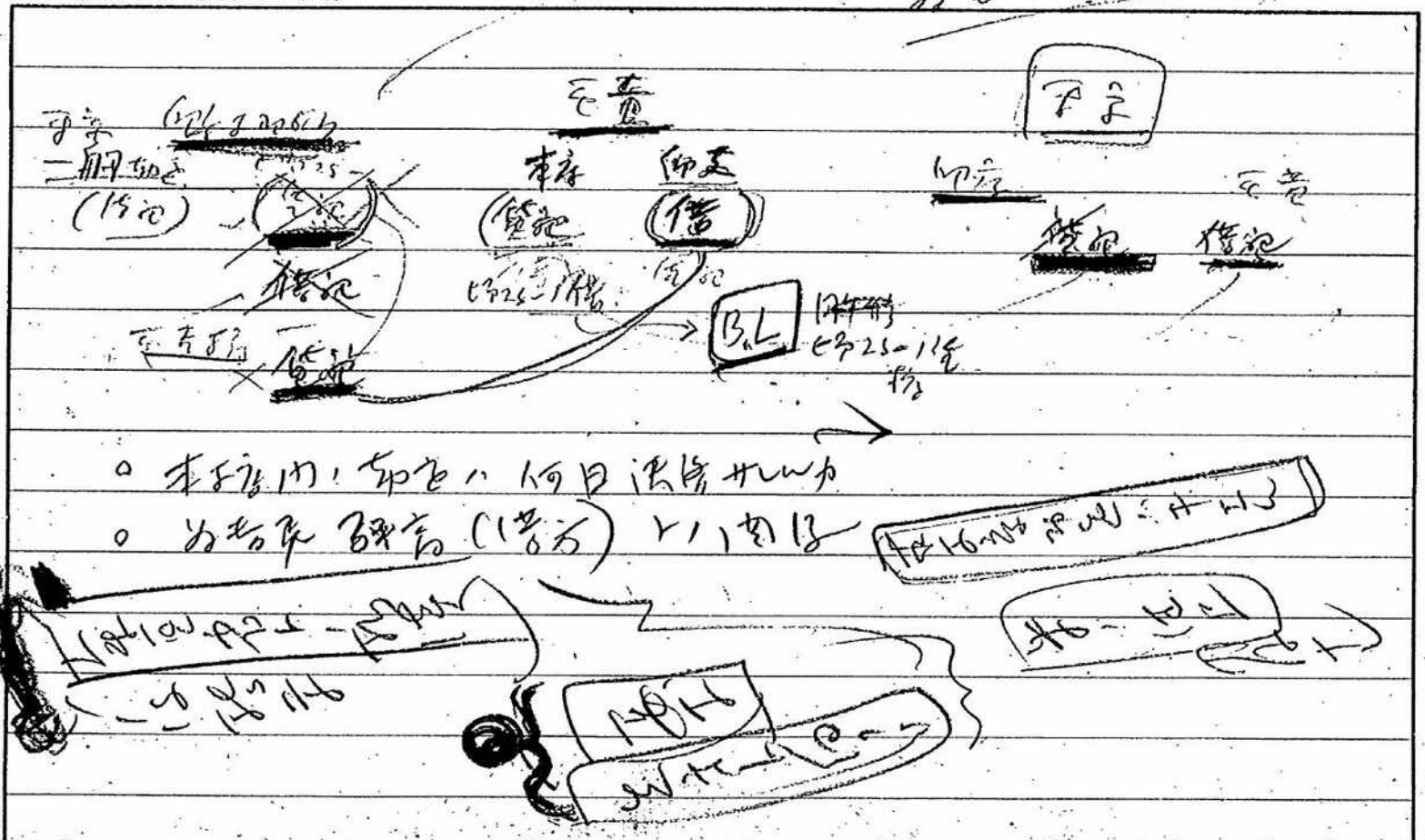
(ハ) 第一、第二兩協定ヲ廢止スルコト、ナレバ第三協定第四條ガ一方的規定デアアル爲メ、印度支那銀行ノ爲メ同一趣旨ノ規定ヲ附ク必要ガアリ、其他ニモ爲替相場其他ニ就キ根本的改正ヲ加ヘル必要ガアル。

以上ノ諸點ヲ勘案、且期限ガ二ヶ月半後ニ迫マツテアル事實ニ鑑ミ第一協定・第二協定ノ延期方ヲ佛印間ニ申入レルガ一番無難ト考ヘル。但シ孰レニスルモ第二協定ニ於ケル米勘定ト一般勘定トノ比率ニ就キテハ政府間ノ協定ヲ必要トスル。

手入  
セ、ス。

(折上固定規格の1×2五折)

2012年11月25日



- 本行内: 報告、何日決着か
- 為替率 調査 (1800) 11/25

裏面白紙

Handwritten notes at the top of the page, including the number '1024' and other illegible characters.

大日本帝國政府

<p>Handwritten notes in the leftmost column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the second column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the third column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the fourth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the fifth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the sixth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the seventh column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the eighth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the ninth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the tenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the eleventh column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the twelfth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the thirteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the fourteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the fifteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the sixteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the seventeenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the eighteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the nineteenth column, including '本子' and other characters.</p>	<p>Handwritten notes in the twentieth column, including '本子' and other characters.</p>
---	---	--	---	--	--	--	---	--	--	---	--	---	---	--	--	--	---	---	--

(國定規格B5(ハニ×五七托))

裏面白紙



1946年刊行 11-57

# 大日本帝國政府

日佛印蘭銀行協定ニ關スル件

一八一六

正金銀行案（第四協定）ニ關シ問題トナルベキ點左ノ通  
一政府間協定トノ關係

一六五六調印ノ日佛協定ハ

(一) 二十二條ニ於テ甲乙丙勸定ヲ予定シ居レル所第四協定案ニ於テハ乙勸定ヲ除外スルコトトナルモ、コノ點ハ一九四四年以後ニ於テハ乙勸定ヘノ振込ヲ規定シアラザルヲ以テ特ニ政府間協定ヲ改訂スルノ要ナカルベキコト

(二) 二十三條ニ於イテ、輸出前貸資金ヘノ充當ヲ規定ヒズ、第四協定案第三條但シ書ハ「輸出買物買付ノ為ノ支拂」ヘノ充當ヲ予定スルヲ以テ、此ノ點日佛協定ノ條文ヲ改正スルノ要アリヤノ問題アルコト

三輸出前貸資金調達ノ問題

裏面白紙

# 大日本帝國政府

輸出前貸資金ヲ一般勘定ニヨリ調達スルコトヲ規定ノ面ニ表スコトハ右一ノ通、政府間協定トノ關係アリ、條文ヲ改正セス外交交渉等ニ依リ運用ニ於テ賈ヲトリ得ザルヤヲ考フルノ要アルベキコト

三、圓ノ二重釐、手紙料ノ二重拂防止 (以下ハ米ノ並外幣の現在ニ於けるセシテイテハ米ノ並外幣の現在ニ於ける)

輸出前貸資金ヲ協定ニ依リ調達スルコトトヒルトキ佛印ノ爲替集中トノ關係ニ於テ輸出前貸ガ輸出爲替ニ轉ジタル場合ハ圓ノ二重賈トナルヲ以テ、之ヲ防止スル方法トシテ左ノ如キ方法考慮ヒラルコト

(一) 前 貸 ——— 對顧客圓買予約 (集中)

輸出爲替 ——— 右予約ノ實行

右ノ場合前貸ヲ集中スルコトハ現在佛印ガ予約爲替ノ集中ヲ認メ居ラザル點交渉ヲ要スルコトトナルコト

(二) 前 貸 ——— 集中 (円)

裏面白紙

1911年11月1日  
 大日本帝國政府  
 外務省  
 通商手帳  
 第1111号  
 1911年11月1日  
 大日本帝國政府  
 外務省  
 通商手帳  
 第1111号

大日本帝國政府

無爲替輸出——集中トズ

右ノ場合現在ノ米ノ如ク、輸出ノ場合手形ヲ組マズ無爲替トス  
レバ集中ノ問題ヲ生ゼズ一應問題ナキコト

(三) 前貸——集中(同前)

輸出爲替——集中

右ノ場合圓ノ二重賣、手数料ニ集拂チ防グタメ、輸出爲替ヲ集  
中スルトキ前貸ノ際、圓賣チ買戻シ且手数料ハ無手数料トスル  
カ、ハ内勘定貸記ニ依リ調整スルカノ方法ヲ請ズルノ要アルコ  
ト

米關係資金調達

正金銀行案通り現在ノ如ク無爲替取扱トスルモ集中手数料並ノ手  
敷料支拂ハ止ムヲ得ザルコト

現在綜合換算率 九七・八二

甲商定一本 九七・六〇

① 甲商定一本  
 ② 九七・六〇  
 ③ 九七・八二  
 ④ 九七・六〇  
 ⑤ 九七・八二  
 ⑥ 九七・六〇  
 ⑦ 九七・八二  
 ⑧ 九七・六〇  
 ⑨ 九七・八二  
 ⑩ 九七・六〇

裏面白紙

大日本帝國政府

(集中手數料八四分ノ一%即三四・四)

差額

三三

裏面白紙





大日本帝國政府

Handwritten notes and a stamp in the top left corner, including the characters "大日本帝國政府".

Main body of handwritten text in vertical columns, including dates like "一九三三年" and "一月二日".

Handwritten notes on the right side of the page, including a signature and a date "一九三三年".

(固定規格B5三×三巻紙)

裏面白紙





大日本帝國政府

奉 命 宣 讀 皇 后 陛 下 之 聖 旨  
 皇 后 陛 下 御 體 不 振 聖 旨 宣 讀 御 醫 官 等 宜 加 意 診 治 務 須 奏 報 御 體 之 變 化 勿 得 延 誤 其 餘 各 宜 慎 守 禮 節 毋 違 聖 訓 欽 此  
 宣 讀 御 醫 官 等 宜 加 意 診 治 務 須 奏 報 御 體 之 變 化 勿 得 延 誤 其 餘 各 宜 慎 守 禮 節 毋 違 聖 訓 欽 此  
 宣 讀 御 醫 官 等 宜 加 意 診 治 務 須 奏 報 御 體 之 變 化 勿 得 延 誤 其 餘 各 宜 慎 守 禮 節 毋 違 聖 訓 欽 此  
 宣 讀 御 醫 官 等 宜 加 意 診 治 務 須 奏 報 御 體 之 變 化 勿 得 延 誤 其 餘 各 宜 慎 守 禮 節 毋 違 聖 訓 欽 此

(國定規格B5二八三×三五七種)

裏面白紙



# 大日本帝國政府

## 一、現行協定ノ有効期間

日佛印銀行間協定ノ期間満了ニ關スル件

外、爲、一八一〇三一

(一) 日本國印度支那間關稅制度、貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル

日佛協定(昭一六 五 六調印)

本年十二月三十一日満了、自動的更新

(二) 正金及印度支那銀行間第一協定(昭一六 七 四調印)

本年十二月三十一日満了

(貿易ニ關スル決濟ハ一液初定ニ依ル)

(三) 正金及印度支那銀行間第二協定(昭一六 七 四調印)

本年十二月三十一日満了

(米代金ニ關スル決濟ハ米勘定ニ依ル)

(四) 日本國佛印間決裁ノ様式ニ關スル交換公文(昭一八 一、二〇

調印)

失效時期ハ政府協定

裏面白紙

大日本帝國政府

(四) 右 交換公文ニ關スル了解事項 (昭一八 一、三〇調印)

右 同

(丙) 正金及印度支那銀行間第三協定 (昭一八 三、二〇調印)

公 換 公 文 ノ 失 効 ニ 關 ス ル 迄 有 効

相互に有効

(出) 右 第三協定ニ關スル了解事項 (昭一八 三、二〇調印)

右 同

四月十九日ヨリ有効

裏面白紙



# 大日本帝國政府

第一協定及第二協定ノ延長又ハ廢止ニ伴フ事項

(一) 第一協定、第二協定廢止ノ場合

(1) 關稅制度貿易及其ノ決濟ノ様式ニ關スル日佛協定ハ貿易上ノ決濟ハ甲勘定ニヨリ米代金ハ乙勘定ニヨル旨規定セルヲ以テ第一協定廢止ニ伴ヒ政府間協定變更ノ要スルコト

(2) 一般勘定ハ存續セシムルモ何等不利益ナラズ五百萬圓迄ハ無利息限度ヲ利用シ得ル處之ヲ廢止スレバ右無利息限度モ利用シ得ザルコトトナルコト

(3) 第三協定第四條(正金ノピアスタ)要求ニヨリ特別圓ヲ對價トシテピアスタ―供給義務―ハ一方的規定ナレバ、印度支那銀行ノ爲ニ現在第一協定第三條ト同一趣旨ノ規定ヲ新ニ置ク要アルト共ニ爲替相場等ニ付キ改正ヲ加フルノ要アルコト

(4) 米代金ニ付一年据置ノ利ヲ失フモ現在一般勘定ノ五〇〇萬圓超過額ハ金又ハ金ニ兌換シ得ル外貨ヲ以テ決濟スルヲ要セズ

裏面白紙

# 大日本帝國政府

特別圓ニテ可ナルヲ以テ特ニ第二協定ニ依リ米代金ヲ据置  
クコトハ利子ノ額(米勘定ハ年 $\frac{3}{8}\%$ 、特別圓勘定ハ一般口年  
1%、通知口年 $\frac{1}{4}\%$ )ヨリスルモ、特ニ利益ナキコトナ  
リ第二協定ヲ存置スルノ意味ナキコト

裏面白紙

# 大日本帝國政府

(二) 第一協定廢止、第二協定存続ノ場合

(1) 右 (一) (1)、(2)、(3)、(4)

(2) 右 (一) (2) ニヨリ第二協定ノミ延後スル理由ナキコト

(3) 政府協定ニ於テ米勘定ニ振込ムベキ比率ノ決定、及從來一般

勘定ニ振込ミタルヲ特別國勘定ニ振込ムコトニ訂正ノ要アル  
コト

(三) 第一、第二協定延長ノ場合

政府協定ニ於テ米代金中一般勘定ニ振込ム分ト米勘定ニ振込ム

分トノ比率ヲ決定スルヲ要スルコト

(四) 第一協定延長第二協定廢止ノ場合

(1) 右 (一) (1)

(2) 第二協定廢止ニ付テハ右 (一) (2) ニヨリ支障ナキコト

裏面白紙







大日本帝國政府

① 昭和十一年四月

（厚紙用）

② 三三三三三

③ アンパンパンパンパン

④ ナナナナナナナナナナナナ

⑤ ナナナナナナナナナナナナ

⑥ ナナナナナナナナナナナナ

⑦ ナナナナナ

⑧ ナナナナナ

ナナナナナナナナナナナナ

（規定規格B5-182x257）

裏面白紙



大日本帝國政府

泰國爲替集中制概要

(國定規格516X256)

一、原則

- 1、差當り圓爲替ニ限り指定銀行ヲ通ジ泰國銀行ニ集中ス
  - 2、現物及先物ニ分チ賣買別ニ金額集中、日銀ニ於ケル泰國銀行特別圖勘定ノ貸借記ニヨリ資金ノ受拂ヲナス
  - 3、集中手數料ハ賣買共百圓ニ付七十五士丹
  - 4、軍票ハ銖資金ノ必要ノ都度無手數料ハ一ニテ特別賣却集中ヲナス
- 二、手續
- 1、指定銀行ハ現物爲替ノ賣買、賣買豫約ノ取扱及實行ノ明細ヲ日報ノ形式ニテ翌日中ニ泰國銀行宛報告ス
  - 2、指定銀行ガ對顧客豫約ヲナシタル場合ハ即日泰國銀行ト賣買反對豫約ヲナス
  - 3、一週間分取額ノ邊中ニ於ケル現物及豫約實行分ニ就キ圓貨賣買差額ノ資金受拂決済ヲナス



~~3700.000~~

3790.000

大日本帝國政府

(國定規格B5 210×297)

右決議ハ電信ヲ以テ幣行東京支店經由日本銀行ニ於ケル「泰國銀行特別圓勘定」ヲ貸借記シ之ヲナス

而シテ右資金受渡ハ適中取引銀行ノ買持ノ場合ハ次週火曜日ニ賣持ノ場合ハ日曜日ニ行フ

4、同時ニ賣買合計額ニ對シ百圓ニ付七十五士丹ノ觀合ヲ以テ指定銀行ハ集中手数料ヲ支拂フ

裏面白紙

大日本帝國政府

一、原則

佛印爲替集中制概要

(國定規格B5(21×29.7))

1、銀行ノ賣買セル外國爲替ハスベテ爲替局(實務佛印銀行取扱)ニ集中ス

2、資金受拂ハ橫濱正金東京支店ニ於ケル佛印銀行一般勘定(4%)及特別圓勘定ノ貸借記ニヨリ之ヲ行フ

3、手数料ハ  
(1)對本邦貿易關係即チ6%ハ協定相場九七圓六〇ニテ換算セル比額ノ1/4%ヲ徵收ス

(2)其ノ他特別圓勘定分ハ銀行ノ賣買開キ全額ヲ徵收ノ上、公金關係ハ千分ノ一ツノ他ハ千分ノ二ノ取扱手数料ヲ銀行ニ與フ

ニ、手續

1、銀行ハ爲替取引(現在現物ノミ)ヲ毎日、爲替取引報告書ニ賣買別記入爲替局宛報告ス

裏面白紙

大日本帝國政府

8、銀行ハ賣買爲替ヲ即日、爲替局ニ集中

右ニヨル資金受渡ハ河内ト西貢ニテ異ル取扱ヲナシ居レリ

(1) 河内

爲替集中比弗對價及手数料受渡ハ即日決濟

圓金ニ對シテハ各々「商業圓%」(即チ6%該當分)「特別圓  
勘定ナル」假%ヲ設ケ、之ニ假記帳シ置キ適當ナル時期ニ(實  
狀ニ見レバ殘高二十萬見當ニ達シタル時)受取方ヨリ東京勘定  
ヘ付替ヲ申出テ圓ヲ決濟、電信料モ申出方負擔ス

(四) 西貢

假勘定ヲ設ケズ單ニ爲替報告書ヲ以テ殘高ヲ算出シオキ適當ナ  
ル時ニ受取方申出ソノ電信料負擔ニテ東京決濟ヲナス。比弗代  
價及受取手数料モコノ時同時ニ行フ

(國定規格B5二公×五五)

503  
378  
205

54 8.0

1/11/11 2392

大日本帝國政府

例

二、佛印貨表示爲替(一〇〇比弗)ヲ銀行ガ賣却シタ場合

(イ) 顧客ハ一〇〇比弗ノ爲替ヲ買フ爲 九八圓一〇ヲ支拂フ

(ロ) 銀行ハ集中(内地)ニ對シ 九七圓八五ヲ拂込メ

手數料

〇圓二五ヲ取得ス

(イ) 集中(内地)ハ一〇〇比弗ヲ

九七圓六〇ヲ賣リ

補償料トシテ

〇圓二五ヲ取得ス

三、圓貨表示爲替(一〇〇比弗相當邦貨)ヲ銀行ガ賣却シタ場合

(イ) 顧客ハ一〇〇比弗相當圓爲替ヲ買フ爲 九八圓一〇ヲ支拂フ

(ロ) 銀行ハ

(a) 〇ノ場合 集中(佛印)ニ對シ 九八圓一〇ヲ拂込メ

一〇〇比弗五一二ニヲ受取り別ニ手數料

トシテ

100 Piaster X 9810 = 9760 Piaster

ヲ支拂フ

銀行ノ賣却(内地) 九七圓六〇  
 手數料 〇圓二五  
 總計 九七圓八五

裏面白紙



大日本帝國政府

故ニ銀行手取ハ

$$100 \text{ Piaster } 5122-100 \text{ Piaster } - 0.25128 = 0.26101 \text{ Piaster } = (ab \text{ To } .2547)$$

(b) 特別圓%ノ場合ニシテ公金ナラザルトキ

集中ニ對シ

$$\text{手數料 } 100 \text{ Piaster } \times 0.2\% = 0.2 \text{ Piaster } \text{ヲ受取ル}$$

九八圓一〇ヲ拂込ミ

(a) 特別圓%ノ場合ニシテ公金ナルトキ

集中ニ對シ

$$\text{手數料 } 100 \text{ Piaster } \times 0.1\% = 0.10 \text{ Piaster } \text{ヲ受取ル}$$

九八圓一〇ヲ拂込ミ

裏面白紙



# 大日本帝國政府

## 一、概 論

東京市公債公債元利拂ニ關スル件

東京市公債公債ハ大正十五年五月其ノ元利拂納實ニ付訴訟開始シテ生  
 シ昭和十四年十二月終ク和議成立シタルモ昭和十五年六月御國敗戦  
 ノ結果和議ノ實施ニ至ラス爾來東京市ハ國籍代理人タル櫻田ニ由  
 爾處置並ニ其ノ後ニ於ケル御國金ヲ撥立テ櫻田ハ日清銀行東京  
 支店ニ對シテ御國金ヲ貸シ（日清ハ櫻田ニ之ガ力バトテ正金ニ求メ）  
 居レルモ支店御國金ノ關係モアリテ資金ヒラレ居ラス

櫻田西彌ハ御國金ニ於ケル御國金ヲ一九四一年二月八日民法ノ應  
 用ニ依リ御國金ヲ貸シ御國金ヲ以テ東京市公債支拂資金

裏面白紙

# 大日本帝國政府

ニ充當センコトヲ企圖シ二月八日法ノ適用方ニ付我方ノ同意ヲ求メ  
來レリ

茲外務省ニ於テハ佛蘭西ニ於ケル對日債務就中本系既契約條約賠償  
後ヲ東京市債支拂存金ニ充當スベキコトニ付テハ之ヲ認メ拂込場所  
ヲ我大使館トスベキ旨主議シ賜レルモ佛蘭西ト妥決ニ至ラス

今銀價劇ハ暴落リ本系既契約條約賠償金トシテ昭和十二年十二月末

迄ノ勘定トシテ邦債一、三三八一六八・四〇三、ヲ支拂ヒ之カ保障場所

ヲ日佛銀行トシタ<sup>ス</sup>旨ノ申入アリタル由ニテ外務省トシテハ從來ノ主

任<sup>張</sup>タル我大使館ニ對スル拂込ハ實際に困難ナルヘキヲ以テ之ヲ別張

申ノ如ク懸案セントスルコトニ付外務省ヨリ當局ニ勸告シ來レルモ

裏面白紙

大日本帝國政府

ノナリ、類ニ露艦ハ別紙乙ノ如ク申入レタル由ニテ當局ノ裁斷決定  
方解罷シ來レルヲ以テ大體來ノ如ク廻答セントス

裏面白紙

# 大日本帝國政府

## 三國條約要旨

1、生糸條約締結約賠償金ヲ東京市債支拂資金引當トスルコトニ當爾トシテハ異議ナキコト

理由イ、右ニ付テハ既ニ在佛三谷大使ニ於テモ佛側ニ「コミット」セルモノト認メラルルコト

ロ、實際上ヨリスルモ佛側申入ヲ採用シ生糸クレームノ解決ヲ爲スコトハ有利ナルコト

但シ生糸クレームノ金額ハ外務省申入額タル邦債一、三三、八一六八圓〇三ハ正金内地店帳簿ニ依ル金額佛債一〇、七、四、千法トモ相當ノ開キアリテ如何ナル基礎ニ依ル算出ナルヤ不明ナルヲ以テ金額

裏面白紙



# 大日本帝國政府

ノ内容ニ付再検討ヲ要スルモノトス

尙佛蘭西ニ於ケル拂込ハ佛貨ヲ以テ爲サレ其ノ換算率ハ佛蘭ニ於ケル換算率ニ依ルモノニシテ該佛貨額ヲ取得額トシテ之ヲ内地ニ於テ内地ニ於ケル換算率ヲ以テ關貨ニ換算シ生糸商ニ支拂ハルルモノナルヲ以テ生糸商ノ手取額ヨリ内地及佛蘭西ニ於ケル換算率ヲ考慮ノ上佛蘭西ニ於ケル拂込額實額ヲ定ムル必キアルヘシ

3、二月八日法ノ適用ハ左ノ理由ヨリ之ヲ謹ケル要アルコト

理由(4) 二月八日法適用ノ結合ハ佛蘭西ニ於ケル對日債務ハ特別ノ

除外ヲキ限リ佛貨換算率ニ關シ支拂ハルルコトナリ一般ノ

裏面白紙

# 大日本帝國政府

通常ナル取引ヲ阻害スル惧アリ

(四) 除外スル聯合不用意ノ除外漏ノ存スル惧アリ

(ハ) 二月八日法ニ依ルトキハ對日換算率百法ニ付一〇圓三四五

ト定メラレアル由ノ處生糸クレーム債權ハ圓總又ハ磅總ニ

シテ我國ニ於ケル現在ノ關稅相場百法ニ付九圓三〇ニ比シ

相當ノ不利アリ

3、從ツテ我外務省側ノ主張タル佛國幣價ニ於ケル正金口庫ヘノ拂込

ハ二月八日法適用ヲ承認シタルトノ誤解ヲ生ズル惧アレバ之ヲ繼

ケ事口日條ニ於ケル正金口庫ニ拂込マシムルヲ適當トスルコト

參 考 日幣銀行ニ於ケル正金銀行口座ニ拂込マレタル聯合ト我

裏面白紙



# 大日本帝國政府

方設初ノ案タル正金在儲支店へ拂込ム場合ノ利害ノ差ハ左記ノ如クアルヘキモ其ノ差ハ比較的少ナルヘキヲ以テ日儲ニ於ケル正金勘定へノ拂込ヲ認ムルコト

(4) 正金在儲支店ニ拂込マレル場合正金トシテ資金利用ノ途アルヘキモ利用ノ期間を一時的ノコトニテモアリ些シタルコトナシ

(5) 日儲ニ正金勘定ヲ以テ拂込マレタル場合モ利率ハ低率ナル上明確モ短期ナルヘキヲ以テ些シタルコトナシ

裏面白紙

大日本帝國政府

4. 生糸製絲協會金ヲ東京市消費文庫貸付ニ充テスルコトトシ

タル上ハ昭和十八年一月八日附第ニ號檢査三號ノ告示(四)

ノ如キ條件ヲ附スルコト

b. 生糸クレームノ解決ノ上ハ前ノ條ノ同日附檢査ニ付順次同様ノ

措置ヲトルコト限シソノ御意又ハ願望ニ付テハ後方ト請願ノ

上決定スルコト

裏面白紙

